

注3

大学番号：023

[平成25年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

石巻専修大学 理工学部 食環境学科 生物科学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人専修大学
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務部

職名・氏名 ジョウ 次長 コンノヒサオ 今野久男

電話番号 0225-22-7711

（夜間） 0225-22-7711

F A X 0225-22-7710

e-mail isu-kikaku@isenshu-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（◇◇学部（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

理工学部

＜食環境学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	12
6. 留意事項等に対する履行状況等	20
7. その他全般的事項	22

＜生物科学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	27
2. 授業科目の概要	31
3. 施設・設備の整備状況、経費	35
4. 既設大学等の状況	36
5. 教員組織の状況	38
6. 留意事項等に対する履行状況等	49
7. その他全般的事項	51

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 専修大学

(2) 大 学 名

石巻専修大学

(3) 大学の位置

〒986－8580
宮城県石巻市南境新水戸1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ヒダカ ヨシヒロ) 日 高 義 博 (平成18年11月)		
学 長	(サカタ タカシ) 坂 田 隆 (平成19年4月)	(オイケ マモル) 尾 池 守 (平成28年4月)	前任が任期満了のため変更 (28)
学 部 長	(マルオカ アキラ) 丸 岡 章 (平成23年4月)	(ヨシハラ アキラ) 吉 原 章 (平成25年4月)	前任が任期満了のため変更 (25)
食環境学科 主任教授		(ヤマザキ タツヤ) 山 崎 達 也 (平成27年4月) (マエダ トシテル) 前 田 敏 輝 (平成25年4月)	前任が任期満了のため変更 (27) 学科新設のため (25)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
- (例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)
平成28年度に報告する内容 → (28)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 - ・ 様式は、平成25年度開設の4年制の学科の場合（平成28年度までの4年間）ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）

(5)－① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の 名称（学位）	設置時の計画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
理工学部 食環境学科 学士（工学）	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 5 年度		平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平均入学定員 超 過 率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	0.51倍	
志願者数	70 (ー) [ー]	(ー) [ー]	69 (ー) [ー]	(ー) [ー]	83 (ー) [ー]	(ー) [ー]	43 (ー) [ー]	(ー) [ー]		
受験者数	69 (ー) [ー]	(ー) [ー]	69 (ー) [ー]	(ー) [ー]	82 (ー) [ー]	(ー) [ー]	43 (ー) [ー]	(ー) [ー]		
合格者数	61 (ー) [ー]	(ー) [ー]	62 (ー) [ー]	(ー) [ー]	69 (ー) [ー]	(ー) [ー]	36 (ー) [ー]	(ー) [ー]		
B 入学者数	26 (ー) [ー]	(ー) [ー]	17 (ー) [ー]	(ー) [ー]	31 (ー) [ー]	(ー) [ー]	9 (ー) [ー]	(ー) [ー]		
入学定員超過率 B／A	0.65		0.42		0.77		0.22			

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ （ ）内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成 2 5 年度		平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[ー] (ー) 26	[ー] (ー) ー	[ー] (ー) 17	[ー] (ー) ー	[ー] 31	[ー] ー	[ー] 10	[ー] ー	1 年次に復学者 1 人を含む (28) 4 年次に休学者 1 人を含む (28)
2 年次			[ー] (ー) 24	[ー] (ー) ー	[ー] (ー) 16	[ー] (ー) ー	[ー] (1) 30	[ー] (ー) ー	
3 年次					[ー] (ー) 24	[ー] (ー) ー	[ー] (ー) 12	[ー] (ー) ー	
4 年次							[ー] (ー) 24	[ー] (ー) ー	
計			[ー] (ー) 26	[ー] (ー) 41	[ー] (ー) 71	[ー] (ー) 76	[ー] (1) 76	[ー] (ー) ー	

- (注) ・ 数字は、平成 2 8 年 5 月 1 日現在の数字を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について 内数 で記入してください。該当がない年には「ー」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「ー」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「ー」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	26 人	2 人	平成25年度	2 人	0 人	進路変更(1人)、除籍(1人)	7.7 %
			平成26年度	0 人	0 人		
			平成27年度	0 人	0 人		
			平成28年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	17 人	4 人	平成26年度	1 人	0 人	進路変更(1人)	23.5 %
			平成27年度	3 人	0 人	進路変更(2人)、病気(1人)	
			平成28年度	0 人	0 人		
平成27年度 入学者	31 人	1 人	平成27年度	0 人	0 人		3.2 %
			平成28年度	1 人	0 人	勉学意欲喪失(1人)	
平成28年度 入学者	9 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人		0.0 %
合 計	83 人	7 人					8.4 %

(注)・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<理工学部 食環境学科>

(1) 授業科目表

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
全 学 科 共 通 科 目	現 代 教 養 科 目	人 間 と 社 会 の 理 解	日本文学	1・2後 1・2前		2							兼1 兼担教員の都合により開講期を変更(27) 通常開講(26) 集中開講(25)
			日本文化	1・2後		2							兼1
			哲学	1・2前		2							兼1
			倫理学	1・2後		2							兼1
			美学	1・2前		2							兼1
			芸術論	1・2後		2							兼1
			教育学概論	1・2前		2							兼1
			教育原理(中等) 教育原理	1・2後		2							兼1 兼2 教職課程申請の際の指導により名称変更・担当者減(25)
			日本史	1・2前		2							兼1
			歴史学	1・2後		2							兼1
			地理学	1・2前		2							兼1
			都市論	1・2後		2							兼1
			法学	1・2前		2							兼1
			日本国憲法	1・2後		2							兼1
			基礎経済	1・2前		2							兼1
			経済学	1・2後		2							兼1
			社会学	1・2前		2							兼1
			基礎統計学	1・2前		2							兼1
			統計学	1・2後		2							兼1
			総合科目Ⅰ	1・2前		2							兼1
			総合科目Ⅱ	1・2後		2							兼1
	心 と 身 体 の 健 康		健康科学	1・2前		2							兼1
			スポーツ科学A	1・2前		2							兼6
			スポーツ科学B	1・2後		2							兼6
			心理学	1・2前		2							兼1
			教育心理学(中等) 教育心理学	1・2後		2							兼1 教職課程申請の際の指導により名称変更(25)
			教育相談の理論と方法(中等) 教育相談の理論と方法	2前 2後		2							兼1 教職課程申請の際の指導により名称変更・体系的履修の観点から配当年次変更(25)
	自 然 の 理 解		基礎物理学	1前		2							兼1
			物理学	1後		2							兼1
			基礎化学	1前	2								兼1
			化学	1後	2			1					
			基礎生物学	1前		2							兼1
			生物学	1後		2							兼1
	言 語 ス キ ル の 基 礎		基礎数学Ⅰ	1前		2							兼1 兼2 教員の担当科目調整に伴う担当者減(25)
			基礎数学Ⅱ	1後		2							兼1
			英語A	1前	2								兼4 兼3 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者追加(25)
			英語B	1後	2								兼4
			英語C	1前		2							兼1
			英語D	1後		2							兼1 兼2 教員の担当科目調整に伴う担当者減(28)
			英語コミュニケーションA	1前		2							兼3 兼5 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者減(25)
			英語コミュニケーションB	1後		2							兼3 兼5 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者減(25)
			英語コミュニケーションC	2前 未開講 2前		2							兼1 通常開講(27) 履修希望者がいなかったため未開講(26)
			英語コミュニケーションD	2後		2							兼1
			ドイツ語A	1前		2							兼1
			ドイツ語B	1後		2							兼1
			ドイツ語C	1前		2							兼1
			ドイツ語D	1後		2							兼1
			フランス語A	1前		2							兼1 兼2 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者減(25)
			フランス語B	1後		2							兼1
			フランス語C	1前		2							兼1
			フランス語D	1後		2							兼1
			中国語A	1前		2							兼2
			中国語B	1後		2							兼2 兼4 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者追加(27)
			中国語C	1前		2							兼2
			中国語D	1後		2							兼1
			ハングルA	1前		2							兼1
			ハングルB	1後		2							兼1
			ハングルC	1前		2							兼1
			ハングルD	1後		2							兼1
			海外語学研修	1. 2. 3前 未開講 1・2・3前		2							兼1 通常開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(25)(26)(27)

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
食 環 境 学 科 固 有 科 目	専 門 必 修 科 目	フレッシュマンセミナー	1通	4			6	3				兼1 兼1	担当者変更(26) 担当者変更(25)
		コンピュータ活用Ⅰ	1前	2				4					
		食環境学実習Ⅰ	1前	1			6	3				兼1	担当者変更(26) 担当者変更(25)
		食環境見学A	1前	1			6	3					
		コンピュータ活用Ⅱ	1後	2				1 4				兼1	担当者変更(26) 担当者変更(25)
		食料問題と資源	1後	2			1						
		キャリアデザインⅠ	2通	2			3					兼1 兼1	兼担採用による変更(27)
		生物学実験	2前	1									
		化学実験	2後	1			5	3				兼2	
		食環境学実習Ⅱ	2後	1			6	3					
		食環境見学B	2後	1			6	3					
		キャリアデザインⅡ	3通	2			3						
		食環境学実験Ⅰ	3前	2			6	3					
		食環境学演習Ⅰ	3前	1			6	3					
		食環境学実験Ⅱ	3後	2			6	3					
		食環境学演習Ⅱ	3後	1			6	3					
		食環境学実験Ⅲ	4前	1			6	3				兼1	
		食環境学演習Ⅲ	4通	2			6	3				兼1	
		卒業研究	4通	6			6	3				兼1	
	専 門 発 展 科 目	生化学	1後		2							兼1	生物環境工学との内容の継続性から開講時期を 変更(27)
		食と感覚の科学	2前		2							兼1	
		食品機能科学	2前		2		1					兼1	
		無機化学	2前		2		1						
		有機化学	2前		2			1				兼1	
		多様性生物学	2前		2								
		生態学	2前		2							兼1	
		公衆衛生学	2前		2							兼1	
		食品微生物学	2後		2							兼1	
		化学環境学	2後		2		1						
		分析化学	2後		2		1						
		高分子化学	2後		2			1				兼1	
		魚類生理学	2後		2								
		環境調査法	2後		2			1				兼1	
		健康と食生活論	2後		2								
		食品レオロジー	3前		2		1						
		栄養学	3前		2		1						
		サプリメント論	3前		2		1						
		生物環境統計学	3後		2			1					
		食品成分の化学	3前		2			1					
		食品寄生生物学	3前		2			1					
		水質環境工学	3前		2		1					兼1	
		環境放射能測定学	3前		2		1						
		水環境の物理学	3前		2		1					兼1	
		水圏微生物学	3前		2								
		食品衛生学	3前		2							兼1	
		食品加工学	3後		2			1					
		極限環境の生物学	3後		2							兼1	
		酵素化学	3後		2							兼1	
		食品分析化学	3後		2		1						
		遺伝子工学	3後		2		1						
		食品製造技術工学	3後		2		1						
		食品流通と品質保証	3後		2		1						
		生物環境工学	3前		2			1				生物環境統計学との内容の継続性から開講時期を 変更(27)	
		水質浄化工学	3後		2		1						
		淡水資源学	3後		2		1						
		食品分析実習	3後		1		2	1					
		食品工学実習	3後		1		2	1					
水環境学実習		3後		1		2	1						
環境衛生学		3後		2							兼1		
衛生行政学		3後		2							兼1		
専 門 関 連 科 目	食環境特別科目Ⅰ	1前		2		6	3				兼1		
	理工数学	1後		2									
	理工物理学	1後		2		1					兼1		
	理工化学	1後		2		1							
	理工生物学	1後		2									
	食環境特別科目Ⅱ	2前 未開講		2		6	3						
	応用数学	2前		2							兼1	通常開講(27) 履修希望者がいなかったため未開講(26)	
	微生物学	2前		2									
	運動と波動	2前		2		1							
	食環境特別科目Ⅲ	2前 未開講		2		6	3						
	分子生物学	2後		2		1					兼1		
	動物解剖学	2後		2									
	解析学	2後		2							兼1		
	プランクトン学	2後		2							兼1		
	細胞組織学	3前		2							兼1		
	動物生理学	2後		2							兼1		
	熱力学	3前		2							兼1		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
食 環 境 学 科 固 有 科 目 （ つ づ ）		食環境特別科目Ⅳ	3後		2		6	3					
		植物生態学	3後		2							兼1	
		植物系統分類学	3前		2							兼1	
		海洋動物発生学	3前		2							兼1	
	自 由 科 目	フーズベシャリスト論	2後			2						兼1	
		フードコーディネート論	3前			2						兼1	
		調理学	3後			2						兼1	
		調理学実習	3前			1						兼1	
		食品官能評価・鑑別論演習	3前			1						兼1	

- （注）
- ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任，兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で，前年度報告時（平成27年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し，「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお，昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については，見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任，兼担の教員が担当する授業科目については，備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で，専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては，「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には，「平成○年○月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について，設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても，設置認可時の状況を黒字で記入してください。また，前年度報告時より修正があれば，赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 25	科目 116	科目 3	科目 144	科目 25 [0]	科目 116 [0]	科目 5 [2]	科目 146 [2]	教育課程の充実を図るため、2科目（フードスペシャリスト関連）を自由科目に追加した (25)

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	寄宿舍新築による変更（平成27年12月1日付で校地の変更届済み）（28） 小数点以下の端数処理の統一による訂正（25）			
	校 舎 敷 地	133,108 137,600 m ²	0 m ²	0 m ²	133,108 137,600 m ²				
	運 動 場 用 地	131,042 131,043 m ²	0 m ²	0 m ²	131,042 131,043 m ²				
	小 計	264,150 268,643 m ²	0 m ²	0 m ²	264,150 268,643 m ²				
	そ の 他	158,458 153,066 m ²	0 m ²	0 m ²	158,458 153,066 m ²				
	合 計	422,608 422,609 m ²	0 m ²	0 m ²	422,608 422,609 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	誤記による訂正（25）			
		39,686 38,518 m ² (39,686 38,518 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	39,686 38,518 m ² (39,686 38,518 m ²)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体（情報処理学習施設の1室に語学学習機能あり） 人間学部設置に伴い教室等を改修整備したことによる訂正（25） (補助職員 2人) (補助職員 0人)			
	30 31	16 13	57 56	8	0				
(4) 専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請学科全体 平成27年4月 専任教員（助教）1名新規採用のため（27）			
		理工学部 食環境学科		9 室					
		理工学部 生物科学科		13 12 室					
(5)	図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 大学全体の共用分 図書177,346〔61,966〕（視聴覚資料含む） うち自然科学系43,112冊〔13,558〕、人文・社会科学系134,234冊〔48,408〕 学術雑誌2,104〔815〕 電子ジャーナル24〔24〕 視聴覚資料2,050 図書174,473〔61,315〕（視聴覚資料含む） うち自然科学系42,690冊〔13,546〕、人文・社会科学系131,783冊〔47,770〕 学術雑誌2,100〔815〕 視聴覚資料1,988 図書172,051〔60,749〕（視聴覚資料含む） うち自然科学系42,405冊〔13,523〕、人文・社会科学系129,646冊〔47,226〕 ※開設年度8,097冊〔797〕購入、完成年度14,238冊〔1,469〕まで購入予定 学術雑誌2,045〔789〕 電子ジャーナル36〔36〕 視聴覚資料1,952
		理工学部全体	14,238〔1,469〕 9,000〔876〕 (12,288〔1,075〕) (10,128〔935〕) (8,097〔797〕) (4,683〔210〕)	2,104〔815〕 2,100〔815〕 2,045 1,998〔789〕 1,988〔774〕	24〔24〕 36〔36〕 48〔48〕	2,050 1,988 1,952 1,619	22	0	
			(12,288〔1,075〕) (10,128〔935〕) (8,097〔797〕) (4,683〔210〕)	2,104〔815〕 2,100〔815〕 2,045 (1,998〔789〕) (1,988〔774〕)	24〔24〕 36〔36〕 48〔48〕	2,050 1,988 1,952 1,619	(22)	0	
		計	14,238〔1,469〕 9,000〔876〕 (12,288〔1,075〕) (10,128〔935〕) (8,097〔797〕) (4,683〔210〕)	2,104〔815〕 2,100〔815〕 2,045 (1,998〔789〕) (1,988〔774〕)	24〔24〕 36〔36〕 48〔48〕	2,050 1,988 1,952 1,619	22	0	
(6) 図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		3,496 m ²		261席		約200,000冊			
(7) 体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,188 m ²		雨天体育場		テニスコート 弓道場			
(8)	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 ※共同研究費は大学全体 ※図書購入費は、届出2学科を含む大学学部全体、図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの運用コスト含む。 ※設備購入費は届出2学科分
		教員1人当たり研究費等	1,000千円	1,000千円	図書購入費	31,084 31,110 千円	31,616 31,110 千円	18,660千円	
		共同研究費等	15,200千円	15,200千円	設備購入費	35,561 57,455 千円	24,125 17,210 千円	9,230千円	
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出後に学費改定となったための訂正（25） 図書購入費・設備購入費の欄は金額確定による修正、備考欄は誤記による訂正（26）	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
		理工学部食環境学科	1,551 1,541 千円	1,311 千円	1,311 千円	1,311 千円	— 千円	— 千円	
	理工学部生物科学科	1,551 1,541 千円	1,311 千円	1,311 千円	1,311 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入、等						

（注）・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。）

- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
- 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（28）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	石 巻 専 修 大 学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
理工学部								宮城県石巻市 南境新水戸1番地	
食環境学科	4	40	—	160	学士（工学）	0.51	平成25年度		平成28年度より入学定員増（15）
生物科学科	4	55	—	175	学士（理学）	1.47	平成25年度		
機械工学科	4	40	—	160	学士（工学）	0.61	平成元年度		平成27年度より編入学定員の募集停止
情報電子工学科	4	35	—	155	学士（工学）	0.59	平成元年度		平成28年度より入学定員減（△5） 平成27年度より編入学定員の募集停止
基礎理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成元年度		平成25年度より募集停止（編入学定員は平成27年度募集停止）
生物生産工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度		平成25年度より募集停止（編入学定員は平成27年度募集停止）
経営学部									
経営学科	4	190	—	790	学士（経営学）	0.55	平成元年度		平成28年度より入学定員減（△10） 平成27年度より編入学定員の募集停止
人間学部									
人間文化学科	4	40	—	160	学士（人間文化学）	0.42	平成25年度		
人間教育学科	4	40	—	160	学士（人間教育学）	0.82	平成25年度		
理工学研究科									
修士課程									
物質工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0.00	平成5年度		
機械システム工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0.20	平成5年度		
生命科学専攻	2	5	—	10	修士（理学）	0.20	平成5年度		
博士後期課程									
生命環境科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.11	平成7年度		
物質機能工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	平成7年度		
経営学研究科									
修士課程									
経営学専攻	2	5	—	10	修士（経営学）	0.40	平成5年度		
博士後期課程									
経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学）	0.11	平成9年度		
大学の名称	専 修 大 学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
経済学部								神田校舎 東京千代田区神田 神保町三丁目8番地1	
経済学科	4	490	—	1,930	学士（経済学）	1.16	昭和24年度		
国際経済学科	4	205	—	805	学士（経済学）	1.17	平成8年度		
法学部									
法律学科	4	562	—	2,212	学士（法学）	1.21	昭和24年度		
政治学科	4	153	—	603	学士（政治学）	1.18	平成18年度		生田校舎 神奈川県川崎市多摩区東三田二丁目1番地1
経営学部									
経営学科	4	542	—	2,132	学士（経営学）	1.15	昭和37年度		
商学部									
マーケティング学科	4	455	—	1,775	学士（商学）	1.19	昭和40年度		
会計学科	4	220	—	880	学士（商学）	1.09	昭和43年度		
文学部									
日本語学科	4	71	—	281	学士（文学）	1.20	平成22年度		
日本文学文化学科	4	114	—	444	学士（文学）	1.19	平成22年度		
英語英米文学科	4	142	—	562	学士（文学）	1.15	昭和41年度		
哲学科	4	71	—	281	学士（文学）	1.13	平成22年度		
歴史学科	4	132	—	522	学士（文学）	1.17	平成22年度		
環境地理学科	4	51	—	201	学士（文学）	1.10	平成22年度		
人文・ジャーナリズム学科	4	93	—	363	学士（文学）	1.19	平成22年度		
ネットワーク情報学部									
ネットワーク情報学科	4	235	—	925	学士（情報学）	1.11	平成13年度		
人間科学部									
心理学科	4	72	—	282	学士（心理学）	1.17	平成22年度		
社会学科	4	122	—	482	学士（社会学）	1.15	平成22年度		
経済学部二部									
経済学科	4	90	—	390	学士（経済学）	1.05	昭和24年度		
法学部二部									
法律学科	4	90	—	540	学士（法学）	0.96	昭和24年度		
商学部二部									
マーケティング学科	4	90	—	390	学士（商学）	1.09	昭和40年度		

経済学研究科 修士課程 経済学専攻 博士後期課程 経済学専攻	2 3	30 3	— —	60 9	修士(経済学) 修士(金融経済) 博士(経済学)	0.35 0.33	昭和27年度 昭和45年度		
法学研究科 修士課程 法学専攻 博士後期課程 民事法学専攻 公法学専攻	2 3 3	25 3 3	— — —	50 9 9	修士(法学) 博士(法学) 博士(法学)	0.20 0.11 0.22	昭和29年度 昭和30年度 昭和49年度		
文学研究科 修士課程 日本語日本文学専攻 英語英米文学専攻 哲学専攻 歴史学専攻 地理学専攻 社会学専攻 心理学専攻	2 2 2 2 2 2 2 2	10 5 5 10 5 5 5 10	— — — — — — — —	20 10 10 20 10 10 10 20	修士(文学) 修士(文学) 修士(哲学) 修士(歴史学) 修士(地理学) 修士(社会学) 修士(心理学)	0.75 0.50 0.60 0.70 0.10 0.40 1.20	昭和46年度 昭和46年度 昭和46年度 平成4年度 平成4年度 平成4年度 平成4年度		
文学研究科 博士後期課程 日本語日本文学専攻 英語英米文学専攻 哲学専攻 歴史学専攻 地理学専攻 社会学専攻 心理学専攻	3 3 3 3 3 3 3 3	3 2 2 5 3 3 3 3	— — — — — — — —	9 6 6 15 9 9 9 9	博士(文学) 博士(文学) 博士(哲学) 博士(歴史学) 博士(地理学) 博士(社会学) 博士(心理学)	0.55 0.16 0.16 0.20 0.00 0.22 0.33	昭和48年度 昭和48年度 昭和48年度 平成6年度 平成6年度 平成6年度 平成6年度		
経営学研究科 修士課程 経営学専攻 博士後期課程 経営学専攻	2 3	20 3	— —	40 9	修士(経営学) 修士(情報管理) 博士(経営学) 博士(情報管理)	0.42 0.77	昭和50年度 昭和52年度		
商学研究科 修士課程 商学専攻 会計学専攻 博士後期課程 商学専攻 会計学専攻	2 2 3 3	10 15 2 2	— — — —	20 30 6 6	修士(商学) 修士(商学) 博士(商学) 博士(商学)	0.35 0.86 0.33 0.66	昭和50年度 平成22年度 昭和52年度 平成22年度		
法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	3	28	—	138	法務博士(専門職)	0.49	平成16年度		
大学の名称	専修大学北海道短期大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	} 平成23年度より募集停止
みどりの総合科学科	2年	—人	—年次	—人	短期大学士(農学)	—倍	平成18年度	北海道美唄市字美唄1610-1	
商経社会総合学科	2	—	—	—	短期大学士(経済学)	—	平成18年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<理工学部 食環境学科>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
専	教授	坂田 隆 ()	平成25年 4 月	食糧問題と資源 食品機能科学 栄養学 フレッシュマンセミナー キャリアデザインⅠ 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品工学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ		教授 (学長)			学長の任期満了（28） 申請時の記載もれ（25）	
専	教授	福島 美智子 ()	平成25年 4 月	理工化学 分析化学 食品分析化学 環境放射能測定学 フレッシュマンセミナー キャリアデザインⅠ 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品分析実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ						
専	教授	高崎 みつる ()	平成25年 4 月	水質浄化工学 淡水資源学 水質環境工学 フレッシュマンセミナー キャリアデザインⅠ 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 水環境学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ						
専	教授	山崎 達也 ()	平成25年 4 月	化学 化学環境学 無機化学 フレッシュマンセミナー キャリアデザインⅡ 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 水環境学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ		教授 (学科 主任)			前任が任期満了のため学科主任に就 任（27）	

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
専	教授	柴田 清孝 ()	平成25年 4 月	分子生物学 サプリメント論 遺伝子工学 フレッシュマンセミナー キャリアデザインⅡ 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品分析実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ						
専	教授	前田 敏輝 ()	平成25年 4 月	理工物理学 運動と波動 食品レオロジー 水環境の物理学 フレッシュマンセミナー キャリアデザインⅡ 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品工学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ 食品製造技術工学 食品流通と品質保証		教授 (学科主 任)				学科主任の任期満了（27） 学科新設に伴い学科主任に就任 （25）
専	准教授	鈴木 英勝 ()	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅱ	兼任	准教授	太田 尚志 ()	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張のため担当科目調整に 伴う担当者変更（25）
					専	准教授	鈴木 英勝 ()	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張から帰国のため担当科 目の再調整に伴う担当科目追加 （26）
				食品寄生生物学 食品加工学 フレッシュマンセミナー 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品工学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ	専	准教授	鈴木 英勝 ()	平成25年 4 月	食品寄生生物学 食品加工学 フレッシュマンセミナー 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品工学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ	
									コンピュータ活用Ⅰ	長期海外出張のため担当科目調整に 伴う担当科目追加（25）
					兼任	教授	太田 尚志 ()	平成26年 4 月	コンピュータ活用Ⅰ	長期海外出張から帰国のため担当科 目の再調整に伴う担当者変更。太田 尚志は平成25年 4 月就任済みで平成 26年 4 月に昇格（26）
専	准教授	鳴海 史高 ()	平成25年 4 月	有機化学 高分子化学 食品成分の化学 フレッシュマンセミナー 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 食品分析実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
専	准教授	玉置 仁 ()	平成25年 4 月	環境調査法 生物環境統計学 生物環境工学 フレッシュマンセミナー 食環境学実習Ⅰ 食環境見学A 化学実験 食環境学実習Ⅱ 食環境見学B 食環境学実験Ⅰ 食環境学演習Ⅰ 食環境学実験Ⅱ 食環境学演習Ⅱ 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究 水環境学実習 食環境特別科目Ⅰ 食環境特別科目Ⅱ 食環境特別科目Ⅲ 食環境特別科目Ⅳ						
兼任	教授	阿部 康一 ()	平成25年 4 月	心理学	兼任	助教	佐藤 誠子 ()	平成26年 4 月	心理学	平成26年3月 阿部康一の退職(定年)に伴う担当者変更 (26)
				教育心理学	兼任	教授	阿部 康一 ()	平成25年 4 月	教育心理学 (中等)	教職課程申請時の指導により科目名称変更 (25)
					兼任	講師	角田 真紀子 ()	平成26年 4 月	教育心理学 (中等)	平成26年3月 阿部康一の退職 (定年) に伴う担当者変更 (26)
					兼任	講師	岩木 信喜 ()	平成27年 4 月	教育心理学 (中等)	平成27年3月 角田真紀子の退職 (本人都合) により担当者変更 (27)
兼任	教授	鈴木 均 ()	平成26年 4 月	食と感覚の科学						
兼任	教授	木村 民男 ()	平成25年 4 月	教育原理	兼任	教授	西方 守 ()	平成25年 4 月	教育原理 (中等)	教職課程申請の指導により科目名称変更・担当者変更 (25)
兼任	教授	土屋 剛 ()	平成25年 4 月	食料問題と資源 動物解剖学 細胞組織学 生物学実験						
兼任	教授	大谷 尚文 ()	平成25年 4 月	フランス語A 総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	兼任	教授	大谷 尚文 ()	平成25年 4 月	フランス語A フランス語B	担当科目追加 (25)
					兼任	教授	三森 敏正 ()	平成25年 4 月	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当者の変更。三森敏正は平成25年4月就任済み (26)
					兼任	教授	佐々木 万亀夫 ()	平成27年 4 月	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当科目調整に伴う担当者変更 (27)
兼任	教授	大津 幸一 ()	平成25年 4 月	英語B	兼任	講師	藤掛 由美子 ()	平成25年 4 月	英語B	担当者変更 (25)
兼任	教授	深川 通寛 ()	平成25年 4 月	基礎統計学 統計学						
兼任	教授	芳賀 信幸 ()	平成25年 4 月	理工生物学	兼任	教授	太田 尚志 ()	平成26年 4 月	理工生物学	担当科目調整に伴う担当者変更。太田尚志は平成25年4月就任済みで平成26年4月に昇格 (26)
				動物生理学 生物学実験						
兼任	教授	吉原 章 ()	平成25年 4 月	物理学 熱力学						
兼任	教授	山崎 省一 ()	平成25年 4 月	健康科学 スポーツ科学A スポーツ科学B						
兼任	教授	松谷 武成 ()	平成25年 4 月	食料問題と資源 海洋動物発生学 生物学実験						
兼任	教授	佐々木 洋 ()	平成26年 4 月	生態学 極限環境の生物学 生物学実験						
兼任	教授	西方 守 ()	平成25年 4 月	哲学 倫理学 教育学概論 教育原理	兼任	教授	西方 守 ()	平成25年 4 月	哲学 倫理学 教育学概論 教育原理 (中等)	教職課程申請時の指導により科目名称変更 (25)
兼任	教授	佐藤 利明 ()	平成25年 4 月	社会学						
兼任	教授	中込 真二 ()	平成26年 4 月	化学実験						
兼任	教授	角田 出 ()	平成25年 4 月	基礎化学 生物学実験 魚類生理学						
兼任	教授	安田 隆 ()	平成26年 4 月	化学実験						
兼任	教授	長谷川 香子 ()	平成25年 4 月	英語B 英語C 英語D	兼任	教授	長谷川 香子 ()	平成25年 4 月	英語B 英語C 英語D 英語A	担当科目追加 (25)

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
					兼任	准教授	大縄 道子 ()	平成28年4月	英語D	担当科目調整に伴う担当者変更 (27)
兼任	教授	根本 智行 ()	平成26年4月	多様性生物学 植物系統分類学 生物学実験						
兼任	教授	宮崎 厚 ()	平成26年4月	微生物学 生物学実験						
兼任	教授	松崎 俊之 ()	平成25年4月	美学 芸術論						
兼任	教授	柳 明 ()	平成25年4月	基礎生物学						
兼任	教授	佐藤 正恵 ()	平成26年4月	教育相談の理論と方法	兼任	講師	角田 真紀子 ()	平成26年4月	教育相談の理論と方法（中 等）	教職課程申請時の指導により科目名 称変更・担当者変更（25）
兼任	教授	根本 泉 ()	平成25年4月	英語B 海外語学研修	兼任	教授	根本 泉 ()	平成25年4月	英語B 海外語学研修 英語A	担当科目追加（25）
兼任	教授	三森 敏正 ()	平成25年4月	法学	兼任	教授	三森 敏正 ()	平成25年4月	法学 日本国憲法 総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当科目追加（26）
					兼任	教授	佐々木 万亀夫 ()	平成27年4月	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当科目調整に伴う担当者変更 (27)
兼任	教授	阿部 知顕 ()	平成25年4月	生化学 食品微生物学 生物学実験						
兼任	准教授	依田 清胤 ()	平成25年4月	食料問題と資源 生物学 植物生態学 生物学実験		教授				昇格のため（25）
兼任	准教授	阿部 正典 ()	平成25年4月	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 理工数学	兼任	准教授	渡邊 正芳 ()	平成25年4月	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	担当者変更（25）
					兼任	准教授	阿部 正典 ()	平成25年4月	理工数学 基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	時間割編成・学生数等の調整に伴う 担当科目追加（27）
兼任	准教授	恵原 貴志 ()	平成25年4月	基礎物理学		教授				昇格のため（25）
兼任	准教授	Richard Halberstadt ()	平成26年4月	英語コミュニケーションC 英語コミュニケーションD	兼任	講師	設楽 いづみ・リ ()	平成25年4月	英語コミュニケーションC 英語コミュニケーションD	平成26年3月 Richard Halberstadtの退職（本人都合）に伴う担当者変更。設楽 いづみ・リは平成25年4月就任済み（26）
兼任	准教授	太田 尚志 ()	平成25年4月	コンピュータ活用Ⅰ	専	准教授	鈴木 英勝 ()	平成25年4月	コンピュータ活用Ⅰ	長期海外出張のため担当科目調整に伴う担当者変更（25）
					兼任	教授	太田 尚志 ()	平成26年4月	コンピュータ活用Ⅰ	昇格のための職位変更、並びに長期海外出張から帰国のため担当科目の再調整に伴う担当科目追加（26）
				水圏微生物学 プランクトン学 生物学実験	兼任	准教授	太田 尚志 ()	平成25年4月	水圏微生物学 プランクトン学 生物学実験	
									コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張のため担当科目調整に伴う担当科目追加（25）
					専	准教授	鈴木 英勝 ()	平成25年4月	コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張から帰国のため担当科目の再調整に伴う担当者変更（26）
兼任	准教授	山内 武巳 ()	平成25年4月	スポーツ科学A スポーツ科学B 健康と食生活論 食環境学実験Ⅲ 食環境学演習Ⅲ 卒業研究						
兼任	准教授	廣瀬 裕作 ()	平成25年4月	日本文学 日本文化			後任未定			担当者変更予定（25）
					兼任	准教授	遠藤 郁子 （松原） ()	平成26年4月	日本文学 日本文化	平成25年4月に退職した廣瀬裕作の後任補充により担当者変更（26）
兼任	准教授	輪田 直子 （小尾） ()	平成25年4月	中国語A 中国語C	兼任	准教授	輪田 直子 （小尾） ()	平成25年4月	中国語A 中国語C 中国語D	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）に伴う 担当科目追加（26）
									中国語B	時間割編成・学生数等の調整に伴う 担当科目追加（27）
兼任	准教授	大縄 道子 ()	平成25年4月	英語A 英語B 英語D	兼任	講師	設楽 宏二 ()	平成28年4月	英語A 英語B	担当科目調整に伴う担当者変更 (28)
兼任	准教授	渡邊 正芳 ()	平成25年4月	基礎数学Ⅰ 応用数学 解析学	兼任	准教授	渡邊 正芳 ()	平成25年4月	基礎数学Ⅰ 応用数学 解析学 基礎数学Ⅱ	担当科目追加（25）
					兼任	准教授	阿部 正典 ()	平成25年4月	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	時間割編成・学生数等の調整に伴う 担当者変更。阿部正典は平成25年4月 就任済み（27）
兼任	准教授	庄子 真岐 （三浦） ()	平成25年4月	地理学 都市論						
兼任	助教	永山 貴洋 ()	平成25年4月	スポーツ科学A スポーツ科学B						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
兼任	助教	佐藤 誠子 ()	平成26年 4 月	心理学						
				教育心理学	兼任	講師	角田 真紀子 ()	平成26年 4 月	教育心理学（中等）	教職課程申請時の指導により科目名称変更・担当者変更（25）
					兼任	講師	岩木 信喜 ()	平成27年 4 月	教育心理学（中等）	平成27年3月 角田真紀子の退職（本人都合）により担当者変更（27）
兼任	講師	村井 ()	平成27年 4 月	食品衛生学 衛生行政学						
兼任	講師	佐藤 ()	平成26年 4 月	公衆衛生学 環境衛生学						
兼任	講師	大森 信治郎 ()	平成27年 4 月	フードコーディネート論 調理学						
兼任	講師	富里 ()	平成25年 4 月	中国語 A 中国語 B	兼任	講師	富里 ()	平成25年 4 月	中国語 A 中国語 B 中国語 C	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）に伴う担当科目追加（26）
兼任	講師	設楽 いづみ ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	兼任	講師	柴田 和枝 ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	担当者変更（25）
					兼任	講師	設楽 いづみ ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション C 英語コミュニケーション D	平成26年3月 Richard Halberstadtの退職（本人都合）に伴う担当科目追加（26）
兼任	講師	設楽 宏二 ()	平成25年 4 月	英語 A	兼任	教授	長谷川 香子 ()	平成25年 4 月	英語 A	担当者変更（25）
					兼任	教授	根本 ()	平成25年 4 月	英語 A	担当者変更（25）
兼任	講師	玉川 明朗 ()	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	講師	佐々木 淳 ()	平成25年 4 月	日本史						
兼任	講師	柴田 和枝 ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B						
兼任	講師	金子 淳 ()	平成27年 4 月	酵素化学						
兼任	講師	藤掛 由美子 ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	兼任	講師	上羽 広明 ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	担当者変更（25）
					兼任	講師	藤掛 由美子 ()	平成25年 4 月	英語 A 英語 B	担当科目追加（25）
兼任	講師	北村 勝朗 ()	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	講師	上羽 広明 ()	平成25年 4 月	英語 A	兼任	講師	藤掛 由美子 ()	平成25年 4 月	英語 A	担当者変更（25）
				英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B						
兼任	講師	井出 留美 ()	平成26年 4 月	フードスペシャリスト論						
兼任	講師	嶋崎 ()	平成25年 4 月	ドイツ語 A ドイツ語 B ドイツ語 C ドイツ語 D						
兼任	講師	宋 貞熹 ()	平成25年 4 月	ハングル A ハングル B ハングル C ハングル D	兼任	講師	黄 孝善 ()	平成27年12月	ハングル A ハングル B ハングル C ハングル D	平成27年11月 宋貞熹の退職（本人都合）により担当者変更（28）
兼任	講師	佐々木 千佳 ()	平成25年 4 月	歴史学	兼任	講師	杵淵 文夫 ()	平成25年 4 月	歴史学	担当者変更（25）
兼任	講師	MENS Virgini Marie Lea ()	平成25年 4 月	フランス語 C フランス語 D						
兼任	講師	星 かおり ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B						
兼任	講師	高間 章 ()	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	講師	島貴 葉子 ()	平成25年 4 月	フランス語 A フランス語 B	兼任	教授	大谷 尚文 ()	平成25年 4 月	フランス語 A フランス語 B	担当者変更（25）
兼任	講師	荒井 壮一 ()	平成25年 4 月	基礎経済 経済学	兼任	准教授 助教	関口 駿輔 ()	平成25年 4 月	基礎経済 経済学	昇格による職位変更（27） 担当者変更（25）

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
兼任	講師	河北 洋介 ()	平成25年4月	日本国憲法	兼任	講師	小野 昇平 ()	平成25年4月	日本国憲法	担当者変更 (25)
					兼任	教授	三森 敏正 ()	平成25年4月	日本国憲法	平成26年3月 小野昇平の退職（本人都合）により 担当者変更。三森敏正は平成25年4月 就任済み (26)
兼任	講師	田島 花野 ()	平成25年4月	中国語C 中国語D	兼任	講師	菅原 尚樹 ()	平成25年4月	中国語C 中国語D	担当者変更 (25)
					兼任	講師	富里 京子 ()	平成26年4月	中国語C	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）により 担当者変更。富里京子は平成25年4月 就任済み (26)
					兼任	准教授	輪田 直子 (小尾) ()	平成26年4月	中国語D	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）により 担当者変更。輪田直子は平成25年4月 就任済み (26)
					兼任	講師	遠藤 俊子 ()	平成27年4月	調理学実習 食品官能評価・鑑別論演習	教育課程の充実に伴う科目追加 (25)
					兼任	講師	門脇 久子 ()	平成28年4月	調理学実習 食品官能評価・鑑別論演習	平成28年3月 遠藤俊子の退職（本人都合）により 担当者変更 (28)
					兼任	助教	中川 蘭 ()	平成27年4月	生物学実験	兼任教員採用に伴う変更 (27)

- (注) ・ 申請書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、**「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成28年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由、変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
6	3	0	0	9	6	3	0	0	9	6	3	0	0	9
――	――	――	――	――						――	――	――	――	――
(6)	(3)	(0)	(0)	(9)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入する、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢	報告書提出時（上記（A））	完成年度時（上記（B））の教員数
70	0	0
歳	名	名

(注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二乗し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由					
1		該当なし									
2											
合計（C）					後任補充状況の集計（D）						
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）				
0	人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由								
1		該当なし												
2														
合 計（A）					後任補充状況の集計（B）									
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
0		人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **就任辞退 (未就任) 及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。**

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (24年12月)	該当なし。	留意事項		
設置計画履行状況 調 査 時 (26年2月) (25年5月)	理工学部食環境学科、人間学部人間教育学科、人間文化学科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生の確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	開設1年目の平成25年度入試で理工学部食環境学科の定員充足率が0.7倍未満となったのは、設置の趣旨・目的等が高校・受験生へ十分に浸透しなかった点が大きいと考えている。 このため、開設2年目の平成26年度入試の実施に当たっては、本学入学試験委員会を中心に、高校・受験生への設置の趣旨・目的の周知に留意しながら、募集活動の強化に努めた。具体的には、入試アドバイザーの活用、訪問高校の担当制、資料請求者等への重点的な広報活動、目的別リーフレット作成、オープンキャンパス等のイベント内容の充実、入試制度改善による多様な受験機会の確保などである。 平成26年度も入学定員を上回る、開設1年目と同水準の志願はあったが、定員充足率では0.7倍に届かず、引き続き入学手続者数の増加に尽力しなければならない状況にある。(26)	本学が立地する地域は、依然として震災の影響が大きく、暫く全学的に不安定な募集環境が続くと考えており、数年かけて定員充足に努める。 このため、本学入学試験委員会を中心に学科の特性や状況も踏まえながら、募集活動の強化策（入試アドバイザーの活用、訪問高校の担当制、資料請求者等への重点的な広報活動、目的別リーフレット作成、オープンキャンパス等のイベント内容の充実、入試制度改善による多様な受験機会の確保、等）を継続・推進する。 特に、イベント内容の充実では、平成26年度から石巻圏域高校等との連携強化事業として、大学見学会等を共同で実施する。また、多様な受験機会の確保では、平成27年度入試から新たに特待生入試及びスポーツ推薦入試を導入する。 この他、間接的に魅力の増大につながるように、教育内容の充実や学生生活面の充実も並行して推進する。 特に、学生生活面では、JR仙石線の復旧の遅れや学生アパートの供給不足という問題がある。震災後の学生の住環境を改善するために、平成27年3月完成を目途に学生寮の建設を進める。通学支援バス6路線については、引き続き運行の改善を図る。 (対応完了予定時期：平成28年度) (26)
設置計画履行状況 調 査 時 (27年2月) (26年5月)	理工学部食環境学科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生の確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	食環境学科の定員充足率は、開設1年目及び開設2年目ともに0.7倍を下回ったことから、開設3年目の平成27年度入試の実施に当たっては、本学入学試験委員会を中心に、学科の特性や状況も踏まえながら引き続き募集活動の強化に努めた。具体的には、入試アドバイザーの活用、訪問高校の担当制、資料請求者等への重点的な広報活動、目的別リーフレット作成、オープンキャンパス等のイベント内容の充実、在学生による情報発信、入試制度改革による多様な受験機会の確保などである。 特に、イベント内容の充実では、平成26年度から石巻圏域高校等との連携強化事業として、大学見学会等を高大共同で実施した。また、多様な受験機会の確保では、平成27年度入試から新たに特待生入試及びスポーツ推薦入試を導入した。 この他、教育内容の充実や学生生活面の充実についても積極的に推進している。特に学生生活面では、JR仙石線の復旧の遅れや学生アパートの供給不足という問題があり、震災後の学生の住環境を改善するために、平成27年3月完成を目指して学生寮の建設を進めた。また、通学支援バス6路線についても、引き続き運行の改善を図った。 この結果、食環境学科の平成27年度志願者数は83名（14名増）、入学者数は31名（0.77倍）となり、昨年度の17名（0.42倍）から改善した。なお、入学定員充足率は0.7倍を上回ったが、定員充足に向けて引き続き尽力する必要がある。(27)	本学が立地する地域は、依然として震災の影響が大きく、定員充足に努めているが、全学的に不安定な募集環境が続いている。 平成28年度入試においても、本学入学試験委員会を中心に、履行状況欄に記したように、学科の特性や状況も踏まえて、引き続き募集活動の強化策を推進する。 特に、平成26年度から取り組んでいる石巻圏域高校等との連携強化事業（高大共同の大学見学会等）、平成27年度入試から導入した特待生入試及びスポーツ推薦入試、学生の住環境の改善のため平成27年3月に建設した学生寮などについて、受験生等への一層の周知に努める。 また、平成27年5月末にJR仙石線が全線開通することから、沿線地域及び仙台地域の高校への募集活動を集中的に進める。 また、完成年度までの入学手続状況等を踏まえて、完成年度以降の入学定員の見直しについても検討することとしている。 (対応完了予定時期：平成28年度) (27)

設置計画履行状況 調査時 (28年2月)	理工学部食環境学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	食環境学科の定員充足率は、開設1年目が26名（0.65倍）、開設2年目が17名（0.42倍）、開設3年目が31名（0.77倍）と改善したが、3年間平均では0.61倍と0.7倍を下回った。 このため、平成28年度入試の実施に当たっては、本学入学試験委員会を中心に、学科の特性や状況も踏まえて、引き続き募集活動の強化に努めた。 特に、平成26年度から取り組んでいる石巻圏域高校等との連携強化事業（高大共同の大学見学会等）、平成27年度入試から導入した特待生入試及びスポーツ推薦入試、学生の住環境の改善のため平成27年3月に建設した学生寮などについて、受験生等への一層の周知に努めた。また、全線開通したJR仙石線の沿線地域及び仙台地域の高校への募集活動を集中的に進めた。 しかし、食環境学科の平成28年度志願者数は43名（40名減）、入学者数は9名（0.22倍）となり、昨年度の31名（0.77倍）から悪化した。入学定員充足率が改善されていないことから、定員充足に向けて引き続き尽力する必要がある。（28）	本学が立地する地域は、依然として震災から5年経過した現在でも影響が大きく、改善状況欄に記したように様々な方法により、募集活動の強化策を推進し定員充足に努めてきているが、全学的に不安定な募集環境が続いている。 平成29年度入試においても、本学入学試験委員会を中心に、引き続き学科の特性や状況も踏まえて、募集活動の強化策をさらに推進する。 特に、石巻圏域高校等との会議で家計困窮を理由に大学進学を断念する生徒がいるとの報告や、本学在学生への調査で被災家庭出身の子女の割合が依然高い水準にあるなどの状況を踏まえて、平成29年度入試から家計収入が一定程度以下の者に対して、授業料の半額を4年間減免する新たな制度（進学サポート奨学生制度）の導入を計画している。 また、教養教育を中心に全学的な見直しを進めるとともに、3学部7学科から成る本学の利点を活かし、8単位まで他学科科目を自学科の履修モデルに取り込み、新たな学びをプラスする学科間ジョイント・プログラムを、平成29年度入学生から全学的に導入することとしている。他分野の新たな魅力が加わることで、学生の興味・関心が喚起されるものと考えている。 このほか間接的ながら、現在3ポリシーの再検討を進めており、平成28年度中に第一段として全学共通部分を公表し、平成29年度入試にも反映させる。受験生に求める能力、入試制度との関係等の明確化により、一定の動機付けが期待できる。 入学定員に関しては、平成28年度の入学手続状況等を踏まえて、完成年度以降の適正な入学定員の見直しについても検討することとしている。 （対応完了予定時期：平成28年度） (28)
----------------------------	--	------	--	---

- （注）
- ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<理工学部 食環境学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①修了要件単位数126単位 必修科目47単位、選択科目229単位、自由科目6単位	①教育課程の充実に伴い、自由科目（2科目・4単位）を追加した。この結果、修了要件単位数126単位 必修科47単位、選択科目229単位、自由科目10単位、に変更。（25）

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

石巻専修大学では、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みを推進するため、「石巻専修大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」に基づき、全学的な組織として「石巻専修大学FD委員会」を設置している。

「石巻専修大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」

(目的及び設置)

第1条 石巻専修大学(以下「本大学」という。)に、ファカルティ・ディベロップメント(本大学の教育の質的向上を図るため、組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。)の推進を目的としてFD委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 委員長 本大学の専任教員のうち学長が指名した者 1名
- (2) 委員 各学部長及び各研究科長から推薦された教員 各若干名

(任期)

第3条 委員長及び委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員長及び委員が任期中に欠けたとき、又は交代したときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案及び実施に関する事項
- (3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項
- (4) FDに関する報告書等の作成に関する事項
- (5) 部会からの報告及び審議に関する事項
- (6) その他FDの推進に関する事項

(招集)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

(大学院部会)

第6条 委員会に、大学院のFDを推進するため大学院部会を置く。

2 大学院部会は、大学院のFDに係る事項について検討し、及び委員会に報告するものとする。

3 大学院部会に関し必要な事項は、委員会が定める。

(事務所管)

第7条 委員会の事務は、事務部事務課が所管する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月1日から施行する

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

石巻専修大学FD委員会は、年間5回程度の開催を予定している。また、必要に応じて臨時委員会を開催する。

〈平成25年度〉

第1回 平成25年 4月25日
第2回 平成25年 5月23日
第3回 平成25年 7月 4日
第4回 平成25年 9月19日
第5回 平成25年10月31日
第6回 平成25年11月28日
第7回 平成26年 2月20日

〈平成26年度〉

第1回 平成26年 4月17日
第2回 平成26年 4月24日
第3回 平成26年 6月19日
第4回 平成26年 7月24日
第5回 平成26年11月 6日
第6回 平成26年11月28日
第7回 平成26年12月 4日

〈平成27年度〉

第1回 平成27年 4月 2日
第2回 平成27年 4月15日
第3回 平成27年 5月21日
第4回 平成27年 6月18日
第5回 平成27年 8月 4日
第6回 平成27年11月26日
第7回 平成28年 3月25日

c 委員会の審議事項等

石巻専修大学FD委員会が審議する事項は、「教育活動改善の方策に関する事項」「初任者及び現任者の研修計画の立案及び実施に関する事項」「学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項」「FDに関する報告書等の作成に関する事項」「部会からの報告及び審議に関する事項」「その他FDの推進に関する事項」である。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣
- ・初任者研修会（採用時）
- ・授業参観（公開授業）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）
- ・授業評価アンケート
- ・その他の活動

b 実施方法

- ・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：本学は「FDネットワーク“つばさ”（協議会事務局 山形大学）」に参加しており、授業評価アンケート様式の利用の他、“つばさ”が行う企画への教員派遣や各種情報の学内還元などを実施
- ・初任者研修会（採用時）：新任教員の採用時にFD委員会委員長や事務部による研修。委員会の活動内容や授業に際しての留意点等を解説
- ・授業参観（公開授業）：年2回程度、大学全体で公開可能な教員を募り実施（検討会も併せて実施）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）：内外講師により教育改善のための勉強会を実施
- ・授業評価アンケート：全学的に3年に1度の割合で実施。平成20年度以降は「FDネットワーク“つばさ”」に参加し参加大学共通の調査様式を利用
- ・その他の活動：その他関連の取組を適宜実施する他、学部内でも必要に応じ補完的な取組を実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

〈平成25年度〉

・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：FD合宿セミナー8/26・27（1名参加）。セミナー内容を教授会に報告。その他つばさ作成の各種報告書等を教員室で閲覧可能とした。
・初任者研修会（採用時）：4/1実施（13人参加）
・授業参観（公開授業）：3回実施（12/11、12/19、1/15）（延べ19人参加）
・FD教員研修会（教員セミナー）：7/18実施（約50人参加）
・授業評価アンケート（※③参照）：未実施
・その他の活動：公開授業後の検討会を3回実施（12/11、12/19、1/15）（延べ19人参加）、FD委員会主催シンポジウム11/1実施（来場者約100人）、全1年次対象の学習成果等アンケート実施（12/2～1/31）

〈平成26年度〉

・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：FD合宿セミナー9/8・9（1名参加）。セミナー内容を教授会に報告。その他つばさ作成の各種報告書等を教員室で閲覧可能とした。
・初任者研修会（採用時）：4/1実施（10人参加）
・授業参観（公開授業）：3回実施（7/11、8/6、10/30）（延べ63人参加）
・FD教員研修会（教員セミナー）：6/5実施（60人参加）、12/11実施（62人参加）
・授業評価アンケート（※③参照）：前期及び後期で全教員対象に実施
・その他の活動：公開授業後の検討会を3回実施（7/11、8/6、10/30）（延べ63人参加）、体験型授業8/6実施（48人参加）、全年次対象の学習成果等アンケート実施（11/4～1/30）

〈平成27年度〉

・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：FD合宿セミナー9/8・9（1名参加）。セミナー内容をFD委員会に報告。その他つばさ作成の各種報告書等を教員室で閲覧可能とした。
・初任者研修会（採用時）：4/1実施（2人参加）
・授業参観（公開授業）：3回実施（7/3、7/14、12/15）（延べ23人参加）
・FD教員研修会（教員セミナー）：5/14実施（48人参加）、6/25実施（49人参加）、7/30実施（36人参加）、9/24実施（24人参加）、10/15実施（26人参加）、11/5実施（23人参加）、12/10実施（10人参加）、1/7実施（14人参加）、2/25実施（22人参加）
・授業評価アンケート（※③参照）：未実施（平成27年度は前年度に実施した内容の分析や報告書のとりまとめを行った。なお、人間学部では独自に毎年度実施）
・その他の活動：全年次対象の学習成果等アンケート実施（11/6～1/29）、FDネットワークつばさのFD協議会及び運営協議会への参加（2/20）

〈平成28年度〉

・初任者研修会（採用時）：4/1実施（2人参加）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

石巻専修大学では、各教員がFD関連の企画への参加や実施結果等を踏まえて、担当科目の授業改善にそれぞれ努めていくことを基本としているが、FD委員会が主導し全学的に実施する授業評価アンケートについては、集計後すぐにデータを担当教員に戻した上で「授業評価アンケート結果についての教員の対応」に関する調査票に記載・提出してもらうことを通じて授業改善を促している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

石巻専修大学では、3年に1度の割合で全学的な授業評価アンケートを実施しており、最近では平成23年度に実施したところである。平成26年度は実施年度に当たり、全教員を対象として前期末と後期末に実施した。なお、人間学部は独自に、空白年度の調査を計画していることから、専任教員について前・後期各1科目を対象に平成25年度と平成27年度に授業評価アンケートを行った。

b 教員や学生への公開状況、方法等

石巻専修大学では、平成23年度に実施した授業評価アンケートについて、全科目別の集計結果と分析結果が報告書（平成25年3月発行）として取りまとめられ、平成25年6月にFDネットワーク“つばさ”の全参加校などに配布された。学内では教員室、図書館で閲覧可能とした他、ホームページ上にも掲載した。平成26年度実施の授業評価アンケートについても一定の分析等を行い同様としているが、特に学生へ広く周知する初めての試みとして、平成27年5月にアンケート結果の一部をグラフ化し学生食堂に掲示した。なお、人間学部が独自に実施したアンケート等の取組みも報告書にまとめ図書館等で閲覧可能としている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

石巻専修大学の自己点検・評価は、全教職員により全学的に取り組むことを基本として、全体的な自己点検・評価については、「石巻専修大学自己点検・評価に関する規程」に基づき、自己点検・評価全学委員会（※委員長は学長から指名された教授）、自己点検・評価運営委員会（※自己点検・評価全学委員会委員長が兼務）、個別機関自己点検・評価委員会（※委員長は各個別機関の長）が連携協力して自己点検・評価を実施する。自己点検・評価全学委員会は、本学の自己点検・評価活動を全学的な視野で総合的に指揮・統括を行い、自己点検・評価運営委員会は円滑な実施・運営のための全学的な調整を担当し、個別機関委員会は、各個別機関の点検・評価を行う任務分担となっている。なお、本学では、加盟している財団法人大学基準協会の認証評価を7年ごとに受けており、平成25年度はそのために必要な申請（平成24年度）を終え、評価を受ける年度となっている。

従って、今回の認証評価には、理工学部や改組する際に基礎となった学科（基礎理学科及び生物生産工学科）に関する内容は含まれているが、食環境学科と生物科学科に関する内容は含まれていない。しかし、理工学部では、石巻専修大学が大学としての内部の質保証の観点から、自己点検・評価全学委員会と各個別機関委員会が連携して毎年度行っている自己点検・評価活動の一環として、両学科の「設置の趣旨・目的」の達成状況などについても、同様に点検・評価を行うこととしている。

〈平成25年度の総括評価・所見〉

食環境学科は、地域の産業支援と、食・環境に精通した技術者の育成が急務と考え、食と健康、食の安全、食糧および食品の生産ならびに加工技術に精通し、食の安全な供給を支える健全な環境作りのための知識と技術を幅広く備え、その持てる力を発揮して社会に貢献できる、社会知性にあふれる人材の育成を目的として設置した。

また、生物科学科は、津波被害を受け自然環境の回復が急がれる地域事情や地球規模で進む環境悪化等を踏まえ、自然環境の保護と再生・修復を担う技術者、命の尊さと多様な生物の生息環境を守ることの必要性を伝え教えることができる教育者の育成を目的として設置した。

開設から1年経過したのみで両学科とも十分な評価をするには至らないが、教育課程については概ね設置計画どおり履行している。特に、1泊2日で行われる新入生オリエンテーションセミナー、フレッシュマンセミナー、1年次から始まる地域関連の専門実習等において、設置の趣旨・目的の理解と、興味関心・学習意欲の喚起につなげるべく、これまで培った学部の特長・実績を踏まえた内容等の充実に努めた結果、総じて学生の反応も良好である。

2年目以降も引き続き教育課程の充実に取り組み、設置計画の履行を着実なものとしていく。定員充足については、食環境学科が入学定員を下回り、逆に生物科学科が入学定員を大幅に超過していることから、食環境学科における募集活動の一層の強化、生物科学科における慎重な合否判定と定員管理に努めていくこととしている。

〈平成26年度の総括評価・所見〉

開設2年目の平成26年度は、各学科の特色を反映した専門科目がさらに多く開講となり、学生の興味・関心につながり活気が生まれている。3年目以降も引き続き教育課程の充実に取り組み、設置計画の履行を着実なものとしていくこととしている。

2年目の定員充足については、1年目同様に食環境学科が入学定員を下回り、逆に生物科学科が入学定員を大幅に超過となった。このため、3年目（平成27年度入試）に向けて定員管理の適正化に努めた結果、両学科ともに改善傾向にある。また、生物科学科の学生数が増加したことに対応し教育環境・内容の水準を維持するため、平成27年度からの専任教員数を1名増とした。

〈平成27年度の総括評価・所見〉

開設3年目の平成27年度は、食環境学科及び生物科学科の特色を反映した専門科目、特に卒業後の進路にも関係するコース毎の実習科目も開講となり、学生の興味・関心につながり活気が生まれている。4年目となる平成28年度も引き続き教育課程の充実に取り組み、設置計画の履行を着実なものとしていくこととしている。

定員充足については、食環境学科では4年間平均で0.51倍と0.7倍に及ばないことから、引き続き募集活動の一層の強化に努めていくこととしている。特に、平成29年度入試では家計収入が一定程度以下の者に対して、授業料の半額を4年間減免する新たな制度（進学サポート奨学生制度）の導入を計画している。また、他学科科目を自学科の履修モデルに取り込み、新たな学びをプラスする学科間ジョイント・プログラムを、平成29年度入学生から全学的に導入することから食環境学科でも計画している。

一方、生物科学科では、開設当初より超過傾向が続いたことから、平成28年度入試の募集に先立ち入学定員の変更（40名から55名）を行うとともに、慎重な定員管理を行ってきた。この結果、前年度の1.25倍から1.14倍に改善することができた。今後とも定員管理の適正化に努めることとしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

財団法人大学基準協会の認証評価の結果及び申請した自己点検評価・報告書については、平成26年4月に公表した。

b 公表方法

上記aの財団法人大学基準協会の認証評価の結果及び申請した自己点検評価・報告書については、印刷物やCDとして、財団法人大学基準協会の加盟大学や石巻市等の関係機関へ送付するとともに、ホームページに掲載するなどして公表している。

③ 認証評価を受ける計画

石巻専修大学では、大学基準協会による認証評価を7年ごとに受けており、今回（平成24年度に申請準備、平成25年度に評価）の後の認証評価は平成32年度となる。ただし、平成25年度の評価で努力課題とされた項目については、平成29年度7月末までの対応状況を「改善報告書」にまとめ大学基準協会に報告する必要がある。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（４）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (2015年 7月 8日)

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 専修大学

(2) 大 学 名

石巻専修大学

(3) 大学の位置

〒986－8580
宮城県石巻市南境新水戸1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ヒダカ ヨシヒロ) 日 高 義 博 (平成18年11月)		
学 長	(サカタ タカシ) 坂 田 隆 (平成19年4月)	(オイケ マモル) 尾 池 守 (平成28年4月)	前任が任期満了のため変更 (28)
学 部 長	(マルオカ アキラ) 丸 岡 章 (平成23年4月)	(ヨシハラ アキラ) 吉 原 章 (平成25年4月)	前任が任期満了のため変更 (25)
生物科学科 主任教授		(アベ トモアキ) 阿 部 知 顕 (平成25年4月)	学科新設のため (25)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
- (例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)
平成28年度に報告する内容 → (28)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は，平成25年度開設の4年制の学科の場合（平成28年度までの4年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し，5年以上の場合には，欄を設けてください。）

(5)－① 調査対象学部等の名称，定員

調査対象学部等の 名称（学位）	設 置 時 の 計 画				備 考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
理工学部 生物科学科 学士（理学）	4年	55人	— 年次人	220人	定員変更(変更前40人、変更届H27.6.12)(28)

- (注) ・ 定員を変更した場合は，「備考」に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は，「備考」にその旨記載してください。

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

区 分	対象年度	平成 2 5 年度		平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平均入学定員 超 過 率	備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員		人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 40 (ー) [ー]	人 55 (ー) [ー]				1.47倍	平成25年度欄誤記により一部訂正(26)
志願者数		174 (ー) [ー]	(ー) [ー]	236 (ー) [ー]	(ー) [ー]	252 (ー) [ー]	(ー) [ー]	169 () []	() []		
受験者数		171 (ー) [ー]	(ー) [ー]	236 (ー) [ー]	(ー) [ー]	251 (ー) [ー]	(ー) [ー]	169 () []	() []		
合格者数		146 (ー) [ー]	(ー) [ー]	177 (ー) [ー]	(ー) [ー]	106 (ー) [ー]	(ー) [ー]	134 () []	() []		
B 入学者数		66 67 (ー) [ー]	(ー) [ー]	74 (ー) [ー]	(ー) [ー]	50 (ー) [ー]	(ー) [ー]	63 () []	() []		
入学定員超過率 B／A		1.65 1.67		1.85		1.25		1.14			

- (注) ・ 数字は，平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ （ ）内には，編入学の状況について外数で記入してください。なお，編入学を複数年次で行っている場合には，（（ ））書きとするなどし，その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ []内には，留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は，春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は，その他の学期欄は「—」を記入してください。また，その他の学期に入学定員を設けている場合は，備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については，各年度の春季入学とその他を合計した入学定員，入学者数で算出してください。なお，計算の際は小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお，計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成 2 5 年度		平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[ー] (ー) 66 67	[ー] (ー) —	[ー] (ー) 74	[ー] (ー) —	[ー] (ー) 50	[ー] (ー) —	[ー] (ー) 63	[ー] (ー) —	2 年次に休学者 1 人、3 年次に休学者 1 人を含む (28) 3 年次に休学者 1 人を含む (27) 平成25年度欄誤記により訂正 (26)
2 年次			[ー] (ー) 63	[ー] (ー) —	[ー] (1) 75	[ー] (ー) —	[ー] (6) 55	[ー] (ー) —	
3 年次					[ー] (ー) 58	[ー] (ー) —	[ー] (ー) 65	[ー] (ー) —	
4 年次							[ー] (ー) 57	[ー] (ー) —	
計							[ー] (ー) 66 67	[ー] (ー) 137	

- (注) ・ 数字は、平成 2 8 年 5 月 1 日現在の数字を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について **内数** で記入してください。該当がない年には「ー」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「ー」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「ー」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	66 67 人	8 人	平成25年度	3 人	0 人	進路変更(2人)、除籍(1人) (※平成25年度入学者数誤記により訂正(26))	12.1 %
			平成26年度	4 人	0 人	勉学意欲喪失(2人)、進路変更(1人)、 経済的理由(1人)	
			平成27年度	1 人	0 人	進路変更(1人)	
			平成28年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	74 人	4 人	平成26年度	0 人	0 人		5.4 %
			平成27年度	3 人	0 人	病気(1人)、経済的理由(1人)、進路変更 (1人)	
			平成28年度	1 人	0 人	勉学意欲喪失(1人)	
平成27年度 入学者	50 人	1 人	平成27年度	1 人	0 人	進路変更(1人)	2.0 %
			平成28年度	0 人	0 人		
平成28年度 入学者	63 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.0 %
合 計	253 人	13 人					5.1 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<理工学部 生物科学科>

(1) 授業科目表

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学科共通科目	現代教養科目	人間と社会の理解	日本文学	1・2後 1・2前		2							兼1 兼担教員の都合により開講期を変更 (27) 通常開講 (26) 集中開講 (25)
			日本文化	1・2後		2							兼1
			哲学	1・2前		2							兼1
			倫理学	1・2後		2							兼1
			美学	1・2前		2							兼1
			芸術論	1・2後		2							兼1
			教育学概論	1・2前		2							兼1
			教育原理 (中等) 教育原理	1・2後		2							兼1 兼2 教職課程申請の際の指導により名称変更・担当者減 (25)
			日本史	1・2前		2							兼1
			歴史学	1・2後		2							兼1
			地理学	1・2前		2							兼1
			都市論	1・2後		2							兼1
			法学	1・2前		2							兼1
			日本国憲法	1・2後		2							兼1
			基礎経済	1・2前		2							兼1
			経済学	1・2後		2							兼1
			社会学	1・2前		2							兼1
			基礎統計学	1・2前		2							兼1
			統計学	1・2後		2							兼1
			総合科目Ⅰ	1・2前		2							兼1
			総合科目Ⅱ	1・2後		2							兼1
		心と身体の健康	健康科学	1・2前		2							兼1
			スポーツ科学A	1・2前		2							兼6
			スポーツ科学B	1・2後		2							兼6
			心理学	1・2前		2							兼1
			教育心理学 (中等) 教育心理学	1・2後		2							兼1 教職課程申請の際の指導により名称変更 (25)
			教育相談の理論と方法 (中等) 教育相談の理論と方法	2前 2後		2							兼1 教職課程申請の際の指導により名称変更・体系的履修の観点から配当年次変更 (25)
		自然の理解	基礎物理学	1前		2							兼1
			物理学	1後		2		1					
			基礎化学	1前		2		1					
			化学	1後		2							兼1
			基礎生物学	1前	2								兼1
			生物学	1後	2			1	4				
			基礎数学Ⅰ	1前	2				1 4				兼1 時間割編成・学生数調整に伴う担当者変更(27) 教員の担当科目調整に伴う担当者減(25)
			基礎数学Ⅱ	1後	2				1				兼1 時間割編成・学生数調整に伴う担当者変更(27)
	言語スキルの基礎	英語A	英語A	1前	2								兼4 兼3 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者追加(25)
			英語B	1後	2								兼4
			英語C	1前		2							兼1
			英語D	1後		2							兼1 兼2 教員の担当科目調整に伴う担当者減(28)
		英語コミュニケーションA	英語コミュニケーションA	1前		2							兼3 兼5 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者減(25)
			英語コミュニケーションB	1後		2							兼3 兼5 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者減(25)
		英語コミュニケーションC	英語コミュニケーションC	2前 未開講 2前		2							兼1 通常開講(27) 履修希望者がいなかったため未開講(26)
			英語コミュニケーションD	2後		2							兼1
		ドイツ語A	ドイツ語A	1前		2							兼1
			ドイツ語B	1後		2							兼1
			ドイツ語C	1前		2							兼1
			ドイツ語D	1後		2							兼1
		フランス語A	フランス語A	1前		2							兼1 兼2 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者減(25)
			フランス語B	1後		2							兼1
			フランス語C	1前		2							兼1
			フランス語D	1後		2							兼1
		中国語A	中国語A	1前		2							兼2
			中国語B	1後		2							兼2 兼1 時間割編成・教員の担当科目数・学生数調整により担当者追加(27)
			中国語C	1前		2							兼2
			中国語D	1後		2							兼1
		ハングルA	ハングルA	1前		2							兼1
			ハングルB	1後		2							兼1
			ハングルC	1前		2							兼1
			ハングルD	1後		2							兼1
		海外語学研修	海外語学研修	1・2・3前 未開講 1・2・3前		2							兼1 通常開講(28) 履修希望者がいなかったため未開講(25)(26)(27)

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
生物科学 科固有科目	専門必修科目	フレッシュマンセミナー	1通	4			11 9	2				兼1	昇格による変更(26) 担当者変更(26) 担当者変更(25) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		コンピュータ活用Ⅰ	1前	2			1	4					専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		基礎理数演習Ⅰ	1前	1			11 9	1 3		1			兼1 兼1	専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)
		生物科学実習ⅠA	1前	1			11 9	2		1				担当者変更(26) 担当者変更(25)
		コンピュータ活用Ⅱ	1後	2				4				兼10	昇格による変更(26) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		基礎理数演習Ⅱ	1後	1			11 9	1 3		1			昇格による変更(26)	
		生物科学実習ⅠB	1後	1			11 9	2		1			専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		キャリアデザインⅠ	2通	2			3							
		化学実験	2前	1										
		バイオサイエンスコミュニケーションⅠ	2前	1			11 9	2				兼10	昇格による変更(26) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物科学実習ⅡA	2前	1			11 9	2		1			専任採用(助教)と担当科目調整による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物学実験	2後	1			10 4 9	2		1			昇格による変更(26)	
		バイオサイエンスコミュニケーションⅡ	2後	1			11 9	2					専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物科学演習Ⅰ	2後	1			11 9	2		1		兼10	専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物科学実習ⅡB	2後	1			11 9	2		1			専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		キャリアデザインⅡ	3通	2			3							
		生物科学実験Ⅰ	3前	2			11 9	2		1			専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		バイオサイエンスコミュニケーションⅢ	3後 3前	1			11 9	2				兼10	教育効果を考慮し開講期を変更(27) 昇格による変更(26) 学生数調整に伴う担当者増(28) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物科学実験Ⅱ	3後	2			11 9	2		1			学生数調整に伴う担当者増(28) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物科学実験Ⅲ	4前	1			11 9	1 2		1			学生数調整に伴う担当者増(28) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		生物科学演習Ⅱ	4通	2			11 9	1 2		1			学生数調整に伴う担当者増(28) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)	
		卒業研究	4通	6				11 9	1 2		1		兼10	学生数調整に伴う担当者増(28) 専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)
	専門発展科目	生化学	1後		2		1					兼1		
		バイオテクノロジー	2前		2		1							
		海洋脊椎動物学	2前		2		1							
		海洋学	2前		2		1							
		多様性生物学	2前		2		1							
		生態学	2前		2		1							
		微生物学	2前		2		1							
		細胞生物学	2後		2									
		無脊椎動物学	2後		2		1							
		動物解剖学	2後		2		1							
		植物機能形態学	2後		2		1	4				兼1	昇格による変更(26)	
		魚類生理学	2後		2		1							
		動物生理学	2後		2		1							
		植物生理学	2後		2		1							
		分子生物学	2後		2									
		プランクトン学	2後		2		1	4					昇格による変更(26)	
		水質環境工学	3前		2									
		海洋生態学	3前		2		1	4				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	昇格による変更(26)	
		細胞組織学	3前		2		1							
		原生動物学	3前		2		1							
		植物系統分類学	3前		2		1							
		海洋動物発生学	3前		2		1							
		動物発生学	3前		2		1							
		保全生物学	3前		2		1							
生物環境統計学		3後 3前		2							生物環境工学ととの内容の継続性から開講時期を変更(27)			
海洋動物生産学		3後		2		1					生物環境統計学ととの内容の継続性から開講時期を変更(27)			
生物環境工学		3前 3後		2										
極限環境の生物学		3後		2		1								
遺伝子工学		3後		2										
神経生理学		3後		2										
野生動物保護論		3後		2		1								
植物生態学		3後		2		1	4				昇格による変更(26)			
菌類学		3後		2		1								
海洋生物学実習		3後		1		4 3	4				昇格による変更(26)			
動物学実習	3後		1		3			1		専任採用(助教)による変更(27) 昇格による変更(26)				
植物学実習	3後		1		3 2	4								
専門関連科目	生物科学特別科目Ⅰ	1前		2		11 9	2				兼1 兼1 兼1 兼1	昇格による変更(26)		
	理工数学	1後		2										
	理工物理学	1後		2										
	理工化学	1後		2		1						教職課程申請の際の指導により担当者変更(25)		
	理工生物学	1後		2		1					兼1 兼1			
	生物科学特別科目Ⅱ	2前		2		11 9	2					昇格による変更(26)		
	無機化学	2前		2										
	有機化学	2前		2										
	応用数学	2前		2			1				兼1 兼1 兼1 兼1			
	運動と波動	2前		2										
	分析化学	2後		2										
	食品微生物学	2後		2		1								
	化学環境学	2後		2							兼1 兼1 兼1 兼1			
	高分子化学	2後		2										
電磁気学	2後		2											
解析学	2後		2			1								

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
生物科学 科目固有科目 (つづき)	専門 関連科目 (つづき)	生物科学特別科目Ⅲ	3前		2		11 9	2					昇格による変更(26)	
		栄養学	3前		2							兼1		
		食品寄生生物学	3前		2							兼1		
		水環境の物理学	3前		2							兼1		
		食品成分の化学	3前		2							兼1		
		水圏微生物学	3前		2		1	4					昇格による変更(26)	
		環境放射能測定学	3前		2							兼1		
		熱力学	3前		2		1 11 9	2						
		生物科学特別科目Ⅳ	3後		2								昇格による変更(26)	
		食品加工学	3後		2							兼1		
		食品分析化学	3後		2							兼1		
		量子物理学	3後		2			1					兼1	教職課程申請の際の指導により担当者変更 (25)
		酵素化学	3後		2								兼1	
	自由 科目	教職概論(中等) 教職概論	2前			2							兼1	教職課程申請の際の指導により名称変更 (25)
		教育制度論(中等) 教育制度論	2後			2							兼1	教職課程申請の際の指導により名称変更 (25)
		教育社会学	2前 3前			2							兼1	体系的履修の観点から配当年次変更(25)
		中等教科教育法Ⅰ(理科)	2通			4							兼1	教職課程申請の際の指導により名称変更・体系的 履修の観点から配当年次変更 (25)
		中等教科教育法Ⅱ(理科)	3通			4							兼1	
		道德教育の指導法(中等) 道德教育の指導法	3前 3後			2							兼1	
		特別活動の指導法(中等) 特別活動の指導法	3後			2							兼1	
		教育課程論(中等) 教育課程論	3前			2							兼1	
		教育方法論(中等) 教育方法論	3後			2							兼1	教職課程申請の際の指導により名称変更 (25)
		生徒・進路指導の理論と方法(中等) 生徒・進路指導の理論と方法	2後 2前			2							兼1	兼任教員の都合により開講期を変更(27) 教職課程申請の際の指導により名称変更 (25)
		教育実習事前事後指導	4前			1							兼2	
		中学校教育実習Ⅰ	4前			2							兼2	
		中学校教育実習Ⅱ	4前			2							兼2	
		高等学校教育実習	4前			2							兼2	
		教職実践演習(中・高)	4後			2							兼2	
		物理学実験	3前			1	1						兼8 兼9	
		地学	3前			2							兼1	
		地学実験	3前			1							兼1	
		生涯学習論	2後			2							兼1	
		地域文化政策論	3前			2							兼1	
		アートマネジメント	3後			2							兼1	
		博物館教育論	2後			2							兼1	
		博物館情報・メディア論	3後			2							兼1	
		博物館資料論	3前			2							兼1	
		博物館資料保存論	3後			2							兼1	
		博物館展示論	3前			2							兼1	
		博物館実習	4通			3							兼1	
		公衆衛生学	2前			2							兼1	
		食品衛生学	3前			2							兼1	
		環境衛生学	3後			2							兼1	
		衛生行政学	3後			2							兼1	
		健康と食生活論	2後			2							兼1	

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備 考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 28	科目 119	科目 32	科目 179	科目 28 [0]	科目 119 [0]	科目 32 [0]	科目 179 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}}$	=	0.00
---	---	------

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	133,108 137,600 m ²	0 m ²	0 m ²	133,108 137,600 m ²				
	運 動 場 用 地	131,042 131,043 m ²	0 m ²	0 m ²	131,042 131,043 m ²				
	小 計	264,150 268,643 m ²	0 m ²	0 m ²	264,150 268,643 m ²	寄宿舎新築による変更（平成27年12月1日付で校地の変更届済み）（28） 小数点以下の端数処理の統一による訂正（25）			
	そ の 他	158,458 153,066 m ²	0 m ²	0 m ²	158,458 153,066 m ²				
	合 計	422,608 422,609 m ²	0 m ²	0 m ²	422,608 422,609 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		39,686 38,518 m ² (39,686 38,518 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	39,686 38,518 m ² (39,686 38,518 m ²)	誤記による訂正（25）			
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体（情報処理学習施設の1室に語学学習機能あり）			
	30 31	16 13	57 56	8 (補助職員 2人)	0 (補助職員 0人)	人間学部設置に伴い教室等を改修整備したことによる訂正（25）			
(4) 専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請学科全体			
		理工学部 食環境学科		9 室					
		理工学部 生物科学科		13 12 室		平成27年4月 専任教員（助教）1名新規採用のため（27）			
(5)	図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 大学全体の共用分 図書177,346〔61,966〕（視聴覚資料含む） うち自然科学系43,112冊〔13,558〕、人文・社会科学系134,234冊〔48,408〕 学術雑誌2,104〔815〕 電子ジャーナル24〔24〕 視聴覚資料2,050 図書174,473〔61,315〕（視聴覚資料含む） うち自然科学系42,690冊〔13,546〕、人文・社会科学系131,783冊〔47,770〕 学術雑誌2,100〔815〕 視聴覚資料1,988 図書172,051〔60,749〕（視聴覚資料含む） うち自然科学系42,405冊〔13,523〕、人文・社会科学系129,646冊〔47,226〕 ※開設年度8,097冊〔797〕購入、完成年度14,238冊〔1,469〕まで購入予定 学術雑誌2,045〔789〕 電子ジャーナル36〔36〕 視聴覚資料1,952
		理工学部全体	14,238〔1,469〕 9,000〔876〕 (12,288〔1,075〕) (10,128〔935〕) (8,097〔797〕) (4,683〔210〕)	2,104〔815〕 2,100〔815〕 2,045 1,998〔789〕 1,988〔774〕	24〔24〕 36〔36〕 48〔48〕	2,050 1,988 1,952 1,619	22	0	
			(12,288〔1,075〕) (10,128〔935〕) (8,097〔797〕) (4,683〔210〕)	2,104〔815〕 2,100〔815〕 2,045 (1,998〔789〕) (1,988〔774〕)	24〔24〕 36〔36〕 48〔48〕	2,050 1,988 1,952 1,619	(22)	0	
		計	14,238〔1,469〕 9,000〔876〕 (12,288〔1,075〕) (10,128〔935〕) (8,097〔797〕) (4,683〔210〕)	2,104〔815〕 2,100〔815〕 2,045 (1,998〔789〕) (1,988〔774〕)	24〔24〕 36〔36〕 48〔48〕	2,050 1,988 1,952 1,619	22	0	
(6) 図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		3,496 m ²		261席		約200,000冊			
(7) 体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体
		3,188 m ²		雨天体育場	テニスコート	弓道場			
(8)	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体
		教員1人当たり研究費等	1,000千円	1,000千円	図書購入費	31,084 31,110 千円	31,616 31,110 千円	18,660千円	※共同研究費は大学全体
		共同研究費等	15,200千円	15,200千円	設備購入費	35,561 57,455 千円	24,125 17,210 千円	9,230千円	※図書購入費は、届出2学科を含む大学学部全体、図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの運用コスト含む。
	経費の見積り及び維持方法の概要	学生1人当たり 納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円	※設備購入費は届出2学科分
		理工学部食環境学科	1,551 1,541 千円	1,311 千円	1,311 千円	1,311 千円	— 千円	— 千円	届出後に学費改定となったための訂正（25） 図書購入費・設備購入費の欄は金額確定による修正、備考欄は誤記による訂正（26）
		理工学部生物科学科	1,551 1,541 千円	1,311 千円	1,311 千円	1,311 千円	— 千円	— 千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入、等				

- （注）・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。）
- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（28）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	石 巻 専 修 大 学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
理工学部	年	人	年次	人		倍		宮城県石巻市 南境新水戸 1 番地	
食環境学科	4	40	—	160	学士（工学）	0. 51	平成25年度		
生物科学科	4	55	—	175	学士（理学）	1. 47	平成25年度		平成28年度より入学定員増（15）
機械工学科	4	40	—	160	学士（工学）	0. 61	平成元年度		平成27年度より編入学定員の募集停止
情報電子工学科	4	35	—	155	学士（工学）	0. 59	平成元年度		平成28年度より入学定員減（△5） 平成27年度より編入学定員の募集停止
基礎理学科	4	—	—	—	学士（理学）	—	平成元年度		平成25年度より募集停止（編入学定員は平成27年度募集停止）
生物生産工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度		平成25年度より募集停止（編入学定員は平成27年度募集停止）
経営学部									
経営学科	4	190	—	790	学士（経営学）	0. 55	平成元年度		平成28年度より入学定員減（△10） 平成27年度より編入学定員の募集停止
人間学部									
人間文化学科	4	40	—	160	学士（人間文化学）	0. 42	平成25年度		
人間教育学科	4	40	—	160	学士（人間教育学）	0. 82	平成25年度		
理工学研究科									
修士課程									
物質工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0. 00	平成5年度		
機械システム工学専攻	2	5	—	10	修士（工学）	0. 20	平成5年度		
生命科学専攻	2	5	—	10	修士（理学）	0. 20	平成5年度		
博士後期課程									
生命環境科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0. 11	平成7年度		
物質機能工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0. 00	平成7年度		
経営学研究科									
修士課程									
経営学専攻	2	5	—	10	修士（経営学）	0. 40	平成5年度		
博士後期課程									
経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学）	0. 11	平成9年度		
大学の名称	専 修 大 学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
経済学部	年	人	年次	人		倍		神田校舎 東京千代田区神田 神保町三丁目 8 番地 1 生田校舎 神奈川県川崎市多摩区東三田二丁目 1 番地 1	
経済学科	4	490	—	1, 930	学士（経済学）	1. 16	昭和24年度		
国際経済学科	4	205	—	805	学士（経済学）	1. 17	平成8年度		
法学部									
法律学科	4	562	—	2, 212	学士（法学）	1. 21	昭和24年度		
政治学科	4	153	—	603	学士（政治学）	1. 18	平成18年度		
経営学部									
経営学科	4	542	—	2, 132	学士（経営学）	1. 15	昭和37年度		
商学部									
マーケティング学科	4	455	—	1, 775	学士（商学）	1. 19	昭和40年度		
会計学科	4	220	—	880	学士（商学）	1. 09	昭和43年度		
文学部									
日本語学科	4	71	—	281	学士（文学）	1. 20	平成22年度		
日本文学文化学科	4	114	—	444	学士（文学）	1. 19	平成22年度		
英語英米文学科	4	142	—	562	学士（文学）	1. 15	昭和41年度		
哲学科	4	71	—	281	学士（文学）	1. 13	平成22年度		
歴史学科	4	132	—	522	学士（文学）	1. 17	平成22年度		
環境地理学科	4	51	—	201	学士（文学）	1. 10	平成22年度		
人文・ジャーナリズム学科	4	93	—	363	学士（文学）	1. 19	平成22年度		
ネットワーク情報学部									
ネットワーク情報学科	4	235	—	925	学士（情報学）	1. 11	平成13年度		
人間科学部									
心理学科	4	72	—	282	学士（心理学）	1. 17	平成22年度		
社会学科	4	122	—	482	学士（社会学）	1. 15	平成22年度		
経済学部二部									
経済学科	4	90	—	390	学士（経済学）	1. 05	昭和24年度		
法学部二部									
法律学科	4	90	—	540	学士（法学）	0. 96	昭和24年度		
商学部二部									
マーケティング学科	4	90	—	390	学士（商学）	1. 09	昭和40年度		

経済学研究科 修士課程									
経済学専攻	2	30	—	60	修士（経済学） 修士（金融経済）	0.35	昭和27年度		
博士後期課程 経済学専攻	3	3	—	9	博士（経済学）	0.33	昭和45年度		
法学研究科 修士課程									
法学専攻	2	25	—	50	修士（法学）	0.20	昭和29年度		
博士後期課程 民事法学専攻	3	3	—	9	博士（法学）	0.11	昭和30年度		
公法学専攻	3	3	—	9	博士（法学）	0.22	昭和49年度		
文学研究科 修士課程									
日本語日本文学専攻	2	10	—	20	修士（文学）	0.75	昭和46年度		
英語英米文学専攻	2	5	—	10	修士（文学）	0.50	昭和46年度		
哲学専攻	2	5	—	10	修士（哲学）	0.60	昭和46年度		
歴史学専攻	2	10	—	20	修士（歴史学）	0.70	平成4年度		
地理学専攻	2	5	—	10	修士（地理学）	0.10	平成4年度		
社会学専攻	2	5	—	10	修士（社会学）	0.40	平成4年度		
心理学専攻	2	10	—	20	修士（心理学）	1.20	平成4年度		
文学研究科 博士後期課程									
日本語日本文学専攻	3	3	—	9	博士（文学）	0.55	昭和48年度		
英語英米文学専攻	3	2	—	6	博士（文学）	0.16	昭和48年度		
哲学専攻	3	2	—	6	博士（哲学）	0.16	昭和48年度		
歴史学専攻	3	5	—	15	博士（歴史学）	0.20	平成6年度		
地理学専攻	3	3	—	9	博士（地理学）	0.00	平成6年度		
社会学専攻	3	3	—	9	博士（社会学）	0.22	平成6年度		
心理学専攻	3	3	—	9	博士（心理学）	0.33	平成6年度		
経営学研究科 修士課程									
経営学専攻	2	20	—	40	修士（経営学） 修士（情報管理）	0.42	昭和50年度		
博士後期課程 経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学） 博士（情報管理）	0.77	昭和52年度		
商学研究科 修士課程									
商学専攻	2	10	—	20	修士（商学）	0.35	昭和50年度		
会計学専攻	2	15	—	30	修士（商学）	0.86	平成22年度		
博士後期課程 商学専攻	3	2	—	6	博士（商学）	0.33	昭和52年度		
会計学専攻	3	2	—	6	博士（商学）	0.66	平成22年度		
法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	3	28	—	138	法務博士（専門職）	0.49	平成16年度		
大学の名称	専修大学北海道短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	} 平成23年度より募集停止
みどりの総合科学科	2年	—人	—年次	—人	短期大学士（農学）	—倍	平成18年度	北海道美唄市字美唄1610-1	
商経社会総合学科	2	—	—	—	短期大学士（経済学）	—	平成18年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（ＡＣ対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成２８年５月１日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・ＡＣ対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第２位まで（小数点以下第３位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし、
「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<理工学部 生物科学科>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
専	教授	土屋 剛 ()	平成25年 4 月	動物解剖学 野生動物保護論 細胞組織学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB キャリアデザインⅠ バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 動物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ						
専	教授	芳賀 信幸 ()	平成25年 4 月	理工生物学 バイオテクノロジー 動物生理学 原生動物学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 動物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ	専	教授	太田 尚志 ()	平成26年 4 月	理工生物学	担当科目数の調整に伴う担当者変更。 太田尚志は平成25年 4 月就任済みで平成26年 4 月昇格 (26)
専	教授	吉原 章 ()	平成25年 4 月	物理学 理工物理学 熱力学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 物理学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ	専	教授 (学部長)	吉原 章 ()	平成25年 4 月	物理学 理工物理学 熱力学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 物理学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ 量子物理学	前任が任期満了のため学部長に就任するとともに、教職課程申請の指導により担当科目追加 (25)

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
専	教授	松谷 武成 ()	平成25年 4 月	無脊椎動物学 海洋動物発生学 海洋動物生産学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB キャリアデザインⅠ バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 海洋生物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ						
専	教授	佐々木 洋 ()	平成25年 4 月	海洋学 生態学 極限環境の生物学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB キャリアデザインⅠ バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 海洋生物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ						
専	教授	角田 出 ()	平成25年 4 月	基礎化学 海洋脊椎動物学 魚類生理学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習ⅠA 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習ⅠB バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習ⅡA 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習ⅡB 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 海洋生物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ						

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
専	教授	宮 崎 厚 ()	平成25年 4 月	微生物学 植物生理学 菌類学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B キャリアデザインⅡ 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 植物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ						
専	教授	根 本 智行 ()	平成25年 4 月	多様性生物学 植物系統分類学 保全生物学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B キャリアデザインⅡ 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 植物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ						
専	教授	阿 部 知顕 ()	平成25年 4 月	生化学 食品微生物学 動物発生学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B キャリアデザインⅡ 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 動物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ	専	教授 (学科主任)	阿 部 知顕 ()	平成25年 4 月	生化学 食品微生物学 動物発生学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バイオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バイオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B キャリアデザインⅡ 生物科学実験Ⅰ バイオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 動物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ 理工化学	学科新設に伴い学科主任に就任するとともに、教職課程申請の指導により担当科目追加 (25)

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考		
専任・兼任・兼任・の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・兼任・兼任・の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称			
専	准教授	依田 清胤 ○	平成25年 4 月	生物学 植物機能形態学 植物生態学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バ`イオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バ`イオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B 生物科学実験Ⅰ バ`イオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 植物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ		教授				昇格のため（25）		
専	准教授	太田 尚志 ○	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅰ	兼任	准教授	鈴木 英勝 ○	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅰ	長期海外出張者（鈴木英勝）の担当科目調整に伴う担当者変更（25）		
				プランクトン学 海洋生態学 水圏微生物学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バ`イオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バ`イオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B 生物科学実験Ⅰ バ`イオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 海洋生物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ	専	教授	太田 尚志 ○	平成26年 4 月	コンピュータ活用Ⅰ	昇格による職位変更、並びに長期海外出張から帰国のため担当科目の再調整に伴う担当科目追加（26）		
									理工生物学	担当科目数の調整に伴う担当科目追加（26）		
					専	准教授	太田 尚志 ○	平成25年 4 月	プランクトン学 海洋生態学 水圏微生物学 フレッシュマンセミナー 基礎理数演習Ⅰ 生物科学実習Ⅰ A 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅰ B バ`イオサイエンスコミュニケーションⅠ 生物科学実習Ⅱ A 生物学実験 バ`イオサイエンスコミュニケーションⅡ 生物科学演習Ⅰ 生物科学実習Ⅱ B 生物科学実験Ⅰ バ`イオサイエンスコミュニケーションⅢ 生物科学実験Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 生物科学演習Ⅱ 卒業研究 海洋生物学実習 生物科学特別科目Ⅰ 生物科学特別科目Ⅱ 生物科学特別科目Ⅲ 生物科学特別科目Ⅳ			
											コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張者（鈴木英勝）の担当科目調整に伴う担当科目追加（25）
									兼任	准教授	鈴木 英勝 ○	平成25年4月
専	准教授	渡邊 正芳 ○	平成25年 4 月	基礎数学Ⅰ	兼任	准教授	阿部 正典 ○	平成25年 4 月	基礎数学Ⅰ	担当科目調整に伴う担当者変更（25）		
				応用数学 解析学 基礎理数演習Ⅰ 基礎理数演習Ⅱ	専	准教授	渡邊 正芳 ○	平成25年 4 月	応用数学 解析学 基礎理数演習Ⅰ 基礎理数演習Ⅱ			
									基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	時間割編成・学生数調整に伴う担当科目追加（27）		
									生物科学演習Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 卒業研究	学生数調整に伴う担当科目追加（28）		
					専	助教	中川 蘭 ○	平成27年4月	生物科学実習Ⅰ A 生物科学実習Ⅰ B 基礎理数演習Ⅰ 基礎理数演習Ⅱ 生物科学実習Ⅱ A 生物科学実習Ⅱ B 生物学実験 生物科学演習Ⅰ 生物科学実験Ⅰ 生物科学実験Ⅱ 植物学実習 生物科学演習Ⅱ 生物科学実験Ⅲ 卒業研究	教育課程充実のための専任教員追加（27）		

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
兼任	教授	坂田 隆 ()	平成27年 4 月	栄養学						
兼任	教授	阿部 康一 ()	平成25年 4 月	心理学	兼任	助教	佐藤 誠子 ()	平成26年 4 月	心理学	平成26年3月 阿部康一の退職(定年)に伴う担当者変更 (26)
				教育心理学	兼任	教授	阿部 康一 ()	平成25年 4 月	教育心理学(中等)	教職課程申請時の指導により科目名称変更 (25)
					兼任	講師	角田 真紀子 ()	平成26年 4 月	教育心理学(中等)	平成26年3月 阿部康一の退職(定年)に伴う担当者変更 (26)
					兼任	講師	岩木 信喜 ()	平成27年 4 月	教育心理学(中等)	平成27年3月 角田真紀子の退職(本人都合)により担当者変更 (27)
兼任	教授	菅原 澄夫 ()	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	教授	鈴木 均 ()	平成27年 4 月	神経生理学						
兼任	教授	國分 義弘 ()	平成26年 4 月	電磁気学 物理学実験						
兼任	教授	木村 民男 ()	平成25年 4 月	教育原理	兼任	教授	西方 守 ()	平成25年 4 月	教育原理(中等)	教職課程申請の指導により科目名称変更・担当者変更 (25)
兼任	教授	大津 幸一 ()	平成25年 4 月	英語B	兼任	講師	藤掛 由美子 ()	平成25年 4 月	英語B	担当者変更 (25)
兼任	教授	大谷 尚文 ()	平成25年 4 月	フランス語A	兼任	教授	大谷 尚文 ()	平成25年 4 月	フランス語A フランス語B	担当科目追加 (25)
				総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	兼任	教授	三森 敏正 ()	平成25年 4 月	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当者の変更。三森敏正は平成25年 4 月就任済み (26)
					兼任	教授	佐々木万亀夫 ()	平成27年 4 月	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当科目調整に伴う担当者変更 (27)
兼任	教授	深川 通寛 ()	平成25年 4 月	基礎統計学 統計学						
兼任	教授	山崎 省一 ()	平成25年 4 月	健康科学 スポーツ科学A スポーツ科学B						
兼任	教授	福島 美智子 ()	平成25年 4 月	理工化学	専	教授	阿部 知顕 ()	平成25年 4 月	理工化学	教職課程申請の指導により担当者変更 (25)
				分析化学 食品分析化学 環境放射能測定学 化学実験						
兼任	教授	西方 守 ()	平成25年 4 月	哲学 倫理学 教育学概論						
				教育原理					教育原理(中等)	教職課程申請の指導により科目名称変更 (25)
兼任	教授	佐藤 利明 ()	平成25年 4 月	社会学 教育社会学						
兼任	教授	高崎 みつる ()	平成26年 4 月	水質環境工学 化学実験						
兼任	教授	中込 真二 ()	平成26年 4 月	化学実験						
兼任	教授	安田 隆 ()	平成26年 4 月	化学実験						
兼任	教授	長谷川 香子 ()	平成25年 4 月	英語B 英語C 英語D	兼任	教授	長谷川 香子 ()	平成25年 4 月	英語B 英語C 英語D 英語A	担当科目追加 (25)
					兼任	准教授	大縄 道子()	平成28年4月	英語D	担当科目調整に伴う担当者変更 (27)
兼任	教授	笹原 英史 ()	平成26年 4 月	教職概論	兼任	講師	小峰 直史 ()	平成26年 4 月	教職概論(中等)	教職課程申請時の指導により科目名称変更・担当者変更 (25)
					兼任	教授	佐藤 幹男 ()	平成26年 4 月	教職概論(中等)	担当教員の体調不良により担当者変更 (26)
				道德教育の指導法	兼任	講師	嶺井 正也 ()	平成27年 4 月	道德教育の指導法(中等)	教職課程申請時の指導により科目名称変更・担当者変更 (25)
				特別活動の指導法	兼任	講師	小峰 直史 ()	平成26年 4 月	特別活動の指導法(中等)	教職課程申請の際の指導により科目名の変更・担当者変更 (25)
								平成27年 4 月		担当教員の体調不良に伴い担当科目数を調整したことにより就任年月が変更 (26)
					兼任	講師	長島 康男 ()	平成27年 4 月	特別活動の指導法(中等)	平成27年3月 小峰直史の就任辞退により担当者変更 (27)

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
				教育課程論	兼任	講師	片倉 敏明 ()	平成27年10月	特別活動の指導法（中等）	平成27年4月 長島康男の就任辞退により担当者変更 (28)
					兼任	講師	山谷 幸司 ()	平成27年 4 月	教育課程論（中等）	教職課程申請時の指導により科目名称 変更・担当者変更（25）
					兼任	講師	清水 禎文 ()	平成27年 4 月	教育課程論（中等）	平成27年3月 山谷幸司の就任辞退により担当者変更 (27)
				教育方法論	兼任	講師	朝倉 充彦 ()	平成27年 4 月	教育方法論（中等）	教職課程申請時の指導により科目名称 変更・担当者変更（25）
				教育実習事前事後指導 中学校教育実習Ⅰ 中学校教育実習Ⅱ 高等学校教育実習 教職実践演習（中・高）						
兼任	教授	工藤 すばる ()	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	教授	足立 岳志 ()	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	教授	柳 明 ()	平成25年 4 月	基礎生物学 細胞生物学						
兼任	教授	松崎 俊之 ()	平成25年 4 月	美学 芸術論 地域文化政策論						
兼任	教授	柴田 清孝 ()	平成26年 4 月	分子生物学 遺伝子工学 化学実験						
兼任	教授	山崎 達也 ()	平成25年 4 月	化学 化学環境学 無機化学 化学実験						
兼任	教授	亀谷 裕敬 ()	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	教授	前田 敏輝 ()	平成25年 4 月	運動と波動 水環境の物理学 化学実験						
兼任	教授	佐藤 正恵 ()	平成26年 4 月	教育相談の理論と方法	兼任	講師	角田 真紀子 ()	平成26年 4 月	教育相談の理論と方法（中 等）	教職課程申請時の指導により科目名称 変更・担当者変更（25）
					兼任	講師	阿部 康一 ()	平成27年 4 月	教育相談の理論と方法（中 等）	平成27年3月 角田真紀子の退職（本人都合）により 担当科目追加（27）
兼任	教授	根本 泉 ()	平成25年 4 月	英語B 海外語学研修	兼任	教授	根本 泉 ()	平成25年 4 月	英語B 海外語学研修 英語A	担当科目追加（25）
兼任	教授	三森 敏正 ()	平成25年 4 月	法学	兼任	教授	三森 敏正 ()	平成26年 4 月	法学 日本国憲法 総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当科目追加（26）
					兼任	教授	佐々木 万亀夫 ()	平成27年 4 月	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ	担当科目調整に伴う担当者変更（27）
兼任	准教授	阿部 正典 ()	平成25年 4 月	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 理工数学	専	准教授	渡邊 正芳 ()	平成25年 4 月	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	時間割編成・学生数調整に伴う担当者 変更（27）
兼任	准教授	恵原 貴志 ()	平成25年 4 月	基礎物理学		教授				昇格のため（25）
				量子物理学	専	教授 (学部 長)	吉原 章 ()	平成25年 4 月	量子物理学	教職課程申請時の指導により担当者変 更（25）
兼任	准教授	Richard Halberstadt ()	平成26年 4 月	英語コミュニケーションC 英語コミュニケーションD	兼任	講師	設楽 れゐか・リ ()	平成25年 4 月	英語コミュニケーションC 英語コミュニケーションD	平成26年3月 Richard Halberstadtの退職（本人都 合）に伴う担当者変更（26）
兼任	准教授	山内 武巳 ()	平成25年 4 月	スポーツ科学A スポーツ科学B 健康と食生活論						
兼任	准教授	水野 純 ()	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	准教授	廣瀬 裕作 ()	平成25年 4 月	日本文学 日本文化			後任未定			担当者変更予定（25）
					兼任	准教授	遠藤 郁子 (松原) ()	平成26年 4 月	日本文学 日本文化	平成25年4月に退職した廣瀬裕作の後 任補充により担当者変更（26）

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
兼任	准教授	輪田 直子 (小尾) 〇	平成25年 4 月	中国語 A 中国語 C	兼任	准教授	輪田 直子 (小尾) 〇	平成25年 4 月	中国語 A 中国語 C 中国語 D	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）に伴う担当科目追加（26）
									中国語 B	時間割編成・学生数等の調整に伴う担当科目追加(27)
兼任	准教授	鈴木 英勝 〇	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅱ	専	准教授	太田 尚志 〇	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張のため担当科目調整に伴う担当者変更（25）
					兼任	准教授	鈴木 英勝 〇	平成25年 4 月	コンピュータ活用Ⅱ	長期海外出張から帰国のため担当科目の再調整に伴う担当科目追加（26）
				食品寄生生物学 食品加工学 化学実験	兼任	准教授	鈴木 英勝 〇	平成25年 4 月	食品寄生生物学 食品加工学 化学実験	
									コンピュータ活用Ⅰ	長期海外出張のため担当科目調整に伴う担当科目追加（25）
専	教授	太田 尚志 〇	平成26年 4 月	コンピュータ活用Ⅰ	長期海外出張から帰国のため担当科目の再調整に伴う担当者変更。太田尚志は平成25年 4 月就任済みで平成26年 4 月昇格（26）					
兼任	准教授	大縄 道子 〇	平成25年 4 月	英語 A 英語 B 英語 D	兼任	講師	設楽 宏二 ()	平成28年4月	英語 A 英語 B	担当科目調整に伴う担当者変更（28）
兼任	准教授	鳴海 史高 〇	平成26年 4 月	有機化学 高分子化学 食品成分の化学 化学実験						
兼任	准教授	玉置 仁 〇	平成26年 4 月	生物環境統計学 生物環境工学 化学実験						
兼任	准教授	高橋 智 〇	平成27年 4 月	物理学実験						平成25年9月 原口和也の退職（本人都合）により担当者減（10人→9人）。当該授業は複数教員のため支障なし。前年度記載漏れ（27）
兼任	准教授	原口 和也 〇	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	准教授	庄子 真岐 (三浦) 〇	平成25年 4 月	地理学 都市論 アートマネージメント						
兼任	講師	木元 一彦 〇	平成27年 4 月	物理学実験						
兼任	助教	永山 貴洋 〇	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	助教	佐藤 誠子 〇	平成26年 4 月	心理学						
				教育心理学	兼任	講師	角田 真紀子 〇	平成26年 4 月	教育心理学（中等）	教職課程申請時の指導により科目名称変更・担当者変更（25）
					兼任	講師	岩木 信喜 ()	平成27年 4 月	教育心理学（中等）	平成27年3月 角田真紀子の退職（本人都合）により担当者変更（27）
				生徒・進路指導の理論と方法	兼任	講師	小峰 直史 ()	平成26年 4 月	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	教職課程申請の際の指導により科目名の変更・担当者変更（25）
				生徒・進路指導の理論と方法	兼任	講師	嶺井 正也 ()	平成26年 4 月	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	担当教員の体調不良により担当者変更（26）
				教育実習事前事後指導 中学校教育実習Ⅰ 中学校教育実習Ⅱ 高等学校教育実習 教職実践演習（中・高）						
兼任	講師	尾田 太良 〇	平成27年 4 月	地学 地学実験	兼任	講師	長谷川 四郎 ()	平成28年 4 月	生命と地球 自然環境論	平成27.10 尾田太良の退職（死亡）により担当者変更（28）
兼任	講師	千葉 善昭 〇	平成26年 4 月	教育制度論	兼任	教授	佐藤 幹夫 〇	平成26年 4 月	教育制度論（中等）	教職課程申請時の指導により科目名称変更・担当者変更（25）
				中等教科教育法Ⅰ（理科） 中等教科教育法Ⅱ（理科）	兼任	講師	石川 哲夫 ()	平成26年 4 月	中等教科教育法Ⅰ（理科） 中等教科教育法Ⅱ（理科）	教職課程申請時の指導により担当者変更（25）
					兼任	講師	高橋 幹三 ()	平成26年 4 月	中等教科教育法Ⅰ（理科） 中等教科教育法Ⅱ（理科）	平成26年 3 月 石川哲夫の就任辞退により担当者変更（26）
兼任	講師	村井 拓 〇	平成27年 4 月	食品衛生学 衛生行政学						
兼任	講師	佐藤 博明 〇	平成26年 4 月	公衆衛生学 環境衛生学						
兼任	講師	佐々木 勝基 〇	平成26年 4 月	生涯学習論	兼任	講師	梨本 雄太郎 ()	平成26年 4 月	生涯学習論	平成26年 3 月 佐々木勝基の就任辞退により担当者変更（26）

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
兼任	講師	富里 京子 〇	平成25年 4 月	中国語 A 中国語 B	兼任	講師	富里 京子 〇	平成25年 4 月	中国語 A 中国語 B 中国語 C	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）に伴う担 当科目追加（26）
兼任	講師	設楽 ｲﾍﾞｯｶｰﾘﾝ 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	兼任	講師	柴田 和枝 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	担当者変更（25）
					兼任	講師	設楽 ｲﾍﾞｯｶｰﾘﾝ 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション C 英語コミュニケーション D	平成26年3月 Richard Halberstadtの退職（本人都 合）に伴う担当科目追加（26）
兼任	講師	設楽 宏二 〇	平成25年 4 月	英語 A	兼任	教授	長谷川 香子 〇	平成25年 4 月	英語 A	担当者変更（25）
					兼任	教授	根本 泉 〇	平成25年 4 月	英語 A	担当者変更（25）
兼任	講師	玉川 明朗 〇	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	講師	佐々木 淳 〇	平成25年 4 月	日本史 博物館教育論 博物館情報・メディア論 博物館展示論						
兼任	講師	柴田 和枝 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B						
兼任	講師	金子 淳 〇	平成27年 4 月	酵素化学						
兼任	講師	佐藤 敏幸 〇	平成27年 4 月	博物館資料論 博物館資料保存論 博物館実習						
兼任	講師	藤掛 由美子 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	兼任	講師	上羽 広明 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	担当者の変更（25）
					兼任	講師	藤掛 由美子 〇	平成25年 4 月	英語 A 英語 B	担当科目追加（25）
兼任	講師	北村 勝朗 〇	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	講師	上羽 広明 〇	平成25年 4 月	英語 A 英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B	兼任	講師	藤掛 由美子 〇	平成25年 4 月	英語 A	担当者変更（25）
兼任	講師	嶋崎 順子 〇	平成25年 4 月	ドイツ語 A ドイツ語 B ドイツ語 C ドイツ語 D						
兼任	講師	宋 貞熹 〇	平成25年 4 月	ハングル A ハングル B ハングル C ハングル D	兼任	講師	黄 孝善 〇	平成27年12月	ハングル A ハングル B ハングル C ハングル D	平成27年11月 宋貞熹の退職（本人都合）により担当 者変更（28）
兼任	講師	佐々木 千佳 〇	平成25年 4 月	歴史学	兼任	講師	杵淵 文夫 〇	平成25年 4 月	歴史学	担当者変更（25）
兼任	講師	MENS Virgini Marie Lea 〇	平成25年 4 月	フランス語 C フランス語 D						
兼任	講師	星 かおり 〇	平成25年 4 月	英語コミュニケーション A 英語コミュニケーション B						
兼任	講師	高間 章 〇	平成25年 4 月	スポーツ科学 A スポーツ科学 B						
兼任	講師	島貫 葉子 〇	平成25年 4 月	フランス語 A フランス語 B	兼任	教授	大谷 尚文 〇	平成25年 4 月	フランス語 A フランス語 B	担当者変更（25）
兼任	講師	荒井 壮一 〇	平成25年 4 月	基礎経済 経済学	兼任	准教授 助教	関口 駿輔 〇	平成25年 4 月	基礎経済 経済学	昇格による職位変更（27） 担当者変更（25）
兼任	講師	河北 洋介 〇	平成25年 4 月	日本国憲法	兼任	講師	小野 昇平 〇	平成25年 4 月	日本国憲法	担当者変更（25）
					兼任	教授	三森 敏正 〇	平成25年 4 月	日本国憲法	平成26年 3 月 小野昇平の退職（本人都合）により担 当者変更。三森敏正は平成25年 4 月就 任済み（26）

認 可 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	専任・ 兼任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目の名称	
兼任	講師	田島 花野 ()	平成25年 4 月	中国語 C 中国語 D	兼任	講師	菅原 尚樹 ()	平成25年 4 月	中国語 C 中国語 D	担当者変更 (25)
					兼任	講師	富里 京子 ()	平成26年 4 月	中国語 C	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）により担 当者変更。富里京子は平成25年 4 月就 任済み (26)
					兼任	准教授	輪田 直子 (小尾) ()	平成26年 4 月	中国語 D	平成26年3月 菅原尚樹の退職（本人都合）により担 当者変更。輪田直子は平成25年 4 月就 任済み (26)

- (注) ・ 申請書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を，「変更状況」には平成２８年５月１日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」，「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**，当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し，大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」， 変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお，設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は，「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由，変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
9	3	0	0	12	11	1	0	1	13	11	1	0	1	13
――	――	――	――	――						――	――	――	――	――
(9)	(3)	(0)	(0)	(12)						[2]	[△2]	[0]	[1]	[1]

(注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入する[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢	報告書提出時（上記（A））	完成年度時（上記（B））の教員数
70	0	0
歳	名	名

(注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二乗し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由					
1		該当なし									
2											
合 計（C）					後任補充状況の集計（D）						
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）				
0	人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1		該当なし								
2										
合 計（A）					後任補充状況の集計（B）					
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。**

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (24年12月)	該当なし。	留意事項		
設置計画履行状況 調 査 時 (26年2月) (25年5月)	理工学部生物科学科の入学定員超過 の是正に努めること。	改善意見	理工学部生物科学科が開設1年目の平成25年度入試で入学定員を大幅に上回ったのは、理工学部志願者が生物科学科に集中する中で、過年度データを参考にできず歩留まり率の予測が極めて困難だったことなどによる。 このため、開設2年目の平成26年度入試の実施に当たっては、本学入学試験委員会を中心に超過是正を念頭におきながら、平成25年度入試結果等のデータ分析、入試制度ごとの歩留まりの確認と慎重な合否判定などに努めた。しかしながら、一般入学試験、センター利用入学試験の志願者数は更に増加し、入学手続率の予測も一層困難となり、2年連続で入学定員超過となった。このため、来年度に向けて入学手続の状況等の分析を一段と慎重に行うこととしている。(26)	開設以来、理工学部志願者が生物科学科に集中している現状を踏まえ、本学入学試験委員会が中心となって、生物科学科の入学定員超過については、次年度までに、是正することとしている。 改善方策として特に①志願者が生物科学科に集中していることについての高校・他大学等の志願動向のデータ収集と分析、②開設以降の入試制度別データ蓄積と分析を進め、入試制度別募集人員の適切性の検討を行う等、全学的な募集体制・施策の再構築を行う。入試判定においては、入試制度別の歩留まり率等のデータ分析結果を参考として慎重な合否判定に取り組んでいくこととしている。 (対応完了予定時期：平成27年度) (26)
設置計画履行状況 調 査 時 (27年2月) (26年5月)	理工学部生物科学科の入学定員超過 の改善に努めること。	改善意見	学科開設以来、理工学部志願者が生物科学科に集中している現状を踏まえ、本学入学試験委員会が中心となって、生物科学科の入学定員超過について、平成27年度入試においては是正することを目指に対応した。 具体的な改善方策としては、特に①志願者が生物科学科に集中していることについての高校・他大学等の志願動向のデータ収集と分析、②開設以降の入試制度別データ蓄積と分析を進め、入試制度別募集人員の適切性の検討を行う等、全学的な募集体制・施策の再構築を行う。また、入試判定においては、入試制度別の手続率等のデータ分析結果を参考として慎重な合否判定に取り組んでいる。 特に、一般入試及びセンター試験利用入試における合否判定では、過年度の手続率の分析から、合格率を前年の2分の1近くまで厳しく判定する等、定員超過の是正に努めた。 この結果、生物科学科の入学人数は50名(1.25倍)となり、昨年度の入学人数74名(1.85倍)に比べて大幅に改善したが、引き続き定員超過是正に尽力する必要がある。(27)	生物科学科の入学定員超過の改善については、平成27年度入試での達成を目標に諸対策を進めてきたところであり、かなり目標値に近づけることができたが、平成28年度入試においても、入学定員超過とならないように、引き続き入学試験委員会が中心となって改善に努めることにしている。 また、生物科学科のこれまでの入学手続状況等や、他学科(経営学部経営学科、理工学部情報電子工学科)を含めての改善意見も踏まえ、平成28年度からの入学定員の見直しについても検討を進めることにしている。 (対応完了予定時期：平成28年度) (27)

調 査 時 (28年2月)	理工学部生物科学科の入学定員超過の改善に努めること。	改善意見	生物科学科の入学定員の超過状況は、開設1年目の平成25年度が66名(1.65倍)、開設2年目が74名(1.85倍)であったが、開設3年目が50名(1.25倍)と大幅に改善した。しかし、依然超過したことから、平成28年度入試においては是正することを目標に対応した。 まず、平成28年度入試の募集に先立ち、当面の間(平成28年度から人間学部完成年度以降の全学的な次期改組を行うまでの間)の措置として入学定員を40名から55名に見直すこととし、平成27年6月12日付けで収容定員関係学則変更届出を行った。 当該定員変更を踏まえ、平成28年度入試判定においては、本学入学試験委員会が中心となって、入試制度別の手続率等のデータ分析結果を参考として慎重な合否判定に努めた。 この結果、生物科学科の平成28年度の入学者数は63名(1.14倍)となり、昨年度から大幅に改善した。(28)	生物科学科の入学定員超過については、平成28年度入試での是正を目標に、入学定員の見直しを行い、慎重な合否判定等に努めてきた結果、大幅に改善することができた。平成29年度入試においても、引き続き適正な定員管理に向けて、入学試験委員会が中心となって慎重な合否判定等に努めることにしている。 (対応完了予定時期：平成28年度)(28)
------------------	----------------------------	------	---	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

＜理工学部 生物科学科＞

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- （注）・ １～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

石巻専修大学では、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組みを推進するため、「石巻専修大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」に基づき、全学的な組織として「石巻専修大学FD委員会」を設置している。

「石巻専修大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」

（目的及び設置）

第1条 石巻専修大学（以下「本大学」という。）に、ファカルティ・ディベロップメント（本大学の教育の質的向上を図るため、組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。）の推進を目的としてFD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（構成）

第2条 委員会は、次の者をもって構成する。

- （1）委員長 本大学の専任教員のうち学長が指名した者 1名
- （2）委員 各学部長及び各研究科長から推薦された教員 各若干名

（任期）

第3条 委員長及び委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員長及び委員が任期中に欠けたとき、又は交代したときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- （1）教育活動改善の方策に関する事項
- （2）初任者及び現任者の研修計画の立案及び実施に関する事項
- （3）学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項
- （4）FDに関する報告書等の作成に関する事項
- （5）部会からの報告及び審議に関する事項
- （6）その他FDの推進に関する事項

（招集）

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

（大学院部会）

第6条 委員会に、大学院のFDを推進するため大学院部会を置く。

2 大学院部会は、大学院のFDに係る事項について検討し、及び委員会に報告するものとする。

3 大学院部会に関し必要な事項は、委員会が定める。

（事務所管）

第7条 委員会の事務は、事務部事務課が所管する。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月1日から施行する

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

石巻専修大学FD委員会は、年間5回程度の開催を予定している。また、必要に応じて臨時委員会を開催する。

〈平成25年度〉

- 第1回 平成25年 4月25日
- 第2回 平成25年 5月23日
- 第3回 平成25年 7月 4日
- 第4回 平成25年 9月19日
- 第5回 平成25年10月31日
- 第6回 平成25年11月28日
- 第7回 平成26年 2月20日

〈平成26年度〉

- 第1回 平成26年 4月17日
- 第2回 平成26年 4月24日
- 第3回 平成26年 6月19日
- 第4回 平成26年 7月24日
- 第5回 平成26年11月 6日
- 第6回 平成26年11月28日
- 第7回 平成26年12月 4日

〈平成27年度〉

- 第1回 平成27年 4月 2日
- 第2回 平成27年 4月15日

c 委員会の審議事項等

石巻専修大学FD委員会が審議する事項は、「教育活動改善の方策に関する事項」「初任者及び現任者の研修計画の立案及び実施に関する事項」「学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項」「FDに関する報告書等の作成に関する事項」「部会からの報告及び審議に関する事項」「その他FDの推進に関する事項」である。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣
- ・初任者研修会（採用時）
- ・授業参観（公開授業）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）
- ・授業評価アンケート
- ・その他の活動

b 実施方法

- ・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：本学は「FDネットワーク“つばさ”（協議会事務局 山形大学）」に参加しており、授業評価アンケート様式の利用の他、“つばさ”が行う企画への教員派遣や各種情報の学内還元などを実施
- ・初任者研修会（採用時）：新任教員の採用時にFD委員会委員長や事務部による研修。委員会の活動内容や授業に際しての留意点等を解説
- ・授業参観（公開授業）：年2回程度、大学全体で公開可能な教員を募り実施（検討会も併せて実施）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）：内外講師により教育改善のための勉強会を実施
- ・授業評価アンケート：全学的に3年に1度の割合で実施。平成20年度以降は「FDネットワーク“つばさ”」に参加し参加大学共通の調査様式を利用
- ・その他の活動：その他関連の取組を適宜実施する他、学部内でも必要に応じ補完的な取組を実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

〈平成25年度〉

- ・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：FD合宿セミナー8/26・27（1名参加）。セミナー内容を教授会に報告。その他つばさ作成の各種報告書等を教員室で閲覧可能とした。
- ・初任者研修会（採用時）：4/1実施（13人参加）
- ・授業参観（公開授業）：3回実施（12/11、12/19、1/15）（延べ19人参加）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）：7/18実施（約50人参加）
- ・授業評価アンケート（※③参照）：未実施
- ・その他の活動：公開授業後の検討会を3回実施（12/11、12/19、1/15）（延べ19人参加）、FD委員会主催シンポジウム11/1実施（来場者約100人）、全1年次対象の学習成果等アンケート実施（12/2～1/31）

〈平成26年度〉

- ・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：FD合宿セミナー9/8・9（1名参加）。セミナー内容を教授会に報告。その他つばさ作成の各種報告書等を教員室で閲覧可能とした。
- ・初任者研修会（採用時）：4/1実施（10人参加）
- ・授業参観（公開授業）：3回実施（7/11、8/6、10/30）（延べ63人参加）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）：6/5実施（60人参加）、12/11実施（62人参加）
- ・授業評価アンケート（※③参照）：前期及び後期で全教員対象に実施
- ・その他の活動：公開授業後の検討会を3回実施（7/11、8/6、10/30）（延べ63人参加）、体験型授業8/6実施（48人参加）、全年次対象の学習成果等アンケート実施（11/4～1/30）

〈平成27年度〉

- ・FDネットワークつばさ関連情報提供や企画等への教員派遣：FD合宿セミナー9/8・9（1名参加）。セミナー内容をFD委員会に報告。その他つばさ作成の各種報告書等を教員室で閲覧可能とした。
- ・初任者研修会（採用時）：4/1実施（2人参加）
- ・授業参観（公開授業）：3回実施（7/3、7/14、12/15）（延べ23人参加）
- ・FD教員研修会（教員セミナー）：5/14実施（48人参加）、6/25実施（49人参加）、7/30実施（36人参加）、9/24実施（24人参加）、10/15実施（26人参加）、11/5実施（23人参加）、12/10実施（10人参加）、1/7実施（14人参加）、2/25実施（22人参加）
- ・授業評価アンケート（※③参照）：未実施（平成27年度は前年度に実施した内容の分析や報告書のとりまとめを行った。なお、人間学部では独自に毎年度実施）
- ・その他の活動：全年次対象の学習成果等アンケート実施（11/6～1/29）、FDネットワークつばさのFD協議会及び運営協議会への参加（2/20）

〈平成28年度〉

- ・初任者研修会（採用時）：4/1実施（2人参加）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

石巻専修大学では、各教員がFD関連の企画への参加や実施結果等を踏まえて、担当科目の授業改善にそれぞれ努めていくことを基本としているが、FD委員会が主導し全学的に実施する授業評価アンケートについては、集計後すぐにデータを担当教員に戻した上で「授業評価アンケート結果についての教員の対応」に関する調査票に記載・提出してもらうことを通じて授業改善を促している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

石巻専修大学では、3年に1度の割合で全学的な授業評価アンケートを実施しており、最近では平成23年度に実施したところである。平成26年度は実施年度に当たり、全教員を対象として前期末と後期末に実施した。なお、人間学部は独自に、空白年度の調査を計画していることから、専任教員について前・後期各1科目を対象に平成25年度と平成27年度に授業評価アンケートを行った。

b 教員や学生への公開状況、方法等

石巻専修大学では、平成23年度に実施した授業評価アンケートについて、全科目別の集計結果と分析結果が報告書（平成25年3月発行）として取りまとめられ、平成25年6月にFDネットワーク“つばさ”の全参加校などに配布された。学内では教員室、図書館で閲覧可能とした他、ホームページ上にも掲載した。平成26年度実施の授業評価アンケートについても一定の分析等を行い同様としているが、特に学生へ広く周知する初めての試みとして、平成27年5月にアンケート結果の一部をグラフ化し学生食堂に掲示した。なお、人間学部が独自に実施したアンケート等の取組みも報告書にまとめ図書館等で閲覧可能としている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

石巻専修大学の自己点検・評価は、全教職員により全学的に取り組むことを基本として、全体的な自己点検・評価については、「石巻専修大学自己点検・評価に関する規程」に基づき、自己点検・評価全学委員会（※委員長は学長から指名された教授）、自己点検・評価運営委員会（※自己点検・評価全学委員会委員長が兼務）、個別機関自己点検・評価委員会（※委員長は各個別機関の長）が連携協力して自己点検・評価を実施する。自己点検・評価全学委員会は、本学の自己点検・評価活動を全学的な視野で総合的に指揮・統括を行い、自己点検・評価運営委員会は円滑な実施・運営のための全学的な調整を担当し、個別機関委員会は、各個別機関の点検・評価を行う任務分担となっている。なお、本学では、加盟している財団法人大学基準協会の認証評価を7年ごとに受けており、平成25年度はそのために必要な申請（平成24年度）を終え、評価を受ける年度となっている。

従って、今回の認証評価には、理工学部や改組する際に基礎となった学科（基礎理学科及び生物生産工学科）に関する内容は含まれているが、食環境学科と生物科学科に関する内容は含まれていない。しかし、理工学部では、石巻専修大学が大学としての内部の質保証の観点から、自己点検・評価全学委員会と各個別機関委員会が連携して毎年度行っている自己点検・評価活動の一環として、両学科の「設置の趣旨・目的」の達成状況などについても、同様に点検・評価を行うこととしている。

〈平成25年度の総括評価・所見〉

食環境学科は、地域の産業支援と、食・環境に精通した技術者の育成が急務と考え、食と健康、食の安全、食糧および食品の生産ならびに加工技術に精通し、食の安全な供給を支える健全な環境作りのための知識と技術を幅広く備え、その持てる力を発揮して社会に貢献できる、社会知性にあふれる人材の育成を目的として設置した。

また、生物科学科は、津波被害を受け自然環境の回復が急がれる地域事情や地球規模で進む環境悪化等を踏まえ、自然環境の保護と再生・修復を担う技術者、命の尊さと多様な生物の生息環境を守ることの必要性を伝え教えることができる教育者の育成を目的として設置した。

開設から1年経過したのみで両学科とも十分な評価をするには至らないが、教育課程については概ね設置計画どおり履行している。特に、1泊2日で行われる新入生オリエンテーションセミナー、フレッシュマンセミナー、1年次から始まる地域関連の専門実習等において、設置の趣旨・目的の理解と、興味関心・学習意欲の喚起につなげるべく、これまで培った学部経験・実績を踏まえた内容等の充実に努めた結果、総じて学生の反応も良好である。

2年目以降も引き続き教育課程の充実に取組み、設置計画の履行を着実なものとしていく。定員充足については、食環境学科が入学定員を下回り、逆に生物科学科が入学定員を大幅に超過していることから、食環境学科における募集活動の一層の強化、生物科学科における慎重な合否判定と定員管理に努めていくこととしている。

〈平成26年度の総括評価・所見〉

開設2年目の平成26年度は、各学科の特色を反映した専門科目がさらに多く開講となり、学生の興味・関心につながり活気が生まれている。3年目以降も引き続き教育課程の充実に取組み、設置計画の履行を着実なものとしていくこととしている。

2年目の定員充足については、1年目同様に食環境学科が入学定員を下回り、逆に生物科学科が入学定員を大幅に超過となった。このため、3年目（平成27年度入試）に向けて定員管理の適正化に努めた結果、両学科ともに改善傾向にある。また、生物科学科の学生数が増加したことに対応し教育環境・内容の水準を維持するため、平成27年度からの専任教員数を1名増とした。

〈平成27年度の総括評価・所見〉

開設3年目の平成27年度は、食環境学科及び生物科学科の特色を反映した専門科目、特に卒業後の進路にも関係するコース毎の実習科目も開講となり、学生の興味・関心につながり活気が生まれている。4年目となる平成28年度も引き続き教育課程の充実に取組み、設置計画の履行を着実なものとしていくこととしている。

定員充足については、食環境学科では4年間平均で0.51倍と0.7倍に及ばないことから、引き続き募集活動の一層の強化に努めていくこととしている。特に、平成29年度入試では家計収入が一定程度以下の者に対して、授業料の半額を4年間減免する新たな制度（進学サポート奨学生制度）の導入を計画している。また、他学科科目を自学科の履修モデルに取り込み、新たな学びをプラスする学科間ジョイント・プログラムを、平成29年度入学生から全学的に導入することから食環境学科でも計画している。

一方、生物科学科では、開設当初より超過傾向が続いたことから、平成28年度入試の募集に先立ち入学定員の変更（40名から55名）を行うとともに、慎重な定員管理を行ってきた。この結果、前年度の1.25倍から1.14倍に改善することができた。今後とも定員管理の適正化に努めることとしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

財団法人大学基準協会の認証評価の結果及び申請した自己点検評価・報告書については、平成26年4月に公表した。

b 公表方法

上記aの財団法人大学基準協会の認証評価の結果及び申請した自己点検評価・報告書については、印刷物やCDとして、財団法人大学基準協会の加盟大学や石巻市等の関係機関へ送付するとともに、ホームページに掲載するなどして公表している。

③ 認証評価を受ける計画

石巻専修大学では、大学基準協会による認証評価を7年ごとに受けており、今回（平成24年度に申請準備、平成25年度に評価）の後の認証評価は平成32年度となる。ただし、平成25年度の評価で努力課題とされた項目については、平成29年度7月末までの対応状況を「改善報告書」にまとめ大学基準協会に報告する必要がある。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（４） 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

（ 有 ・ 無 ）

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

（ 2016年 7月 8日 ）